

人権問題に関する府民意識調査

調査結果概要(グラフ版)

1 調査概要

調査の目的

人権問題に関する府民意識の変化、動向を把握することにより、人権尊重の社会づくりに向けた大阪府の今後の人権教育・啓発施策の効果的な取組のための基礎資料を得る。

調査の方法

- (1)調査対象 大阪府内に居住している者(満 18 歳以上)
- (2)対象数 3,550 人
- (3)調査方法 令和 2 年 11 月 24 日(火)に調査票を調査対象者に郵送
(茨木市の一部については、11 月 25 日(水)に郵送)
12 月 2 日(火)にはがきにより再度協力を依頼
集計対象は、12 月 21 日(月)までに返送された調査票

抽出方法と層化基準

- (1)抽出方法 層化二段無作為抽出
- (2)層化基準 府内全 72 市区町村をそれぞれ 1 つの層とした。

回収状況

	割当 標本数	到達 標本数	不到達 標本数	有効回収 調査票数	うち	無効 調査票数	割当標本数に 対する回収率	到達標本数に 対する回収率
					WEB 回収数			
総数	3,550	3,516	34	1,553	325	5	43.7%	44.2%
平成 27 年調査	3,550	3,469	81	1,358	-	2	38.3%	39.1%
平成 22 年調査	2,000	1,982	18	903	-	17	45.2%	45.6%
平成 17 年調査	7,000	6,913	87	3,675	-	219	52.5%	53.2%
平成 12 年調査	10,000	9,770	230	5,568	-	251	55.7%	57.0%

基本属性

(1)性別

	回答者数	男性	女性	その他	不明
令和 2 年調査	100.0% 1,553	43.3% 673	54.5% 847	0.1% 2	2.0% 31
平成 27 年 国勢調査	100.0%	47.5%	52.5%	—	0.0%

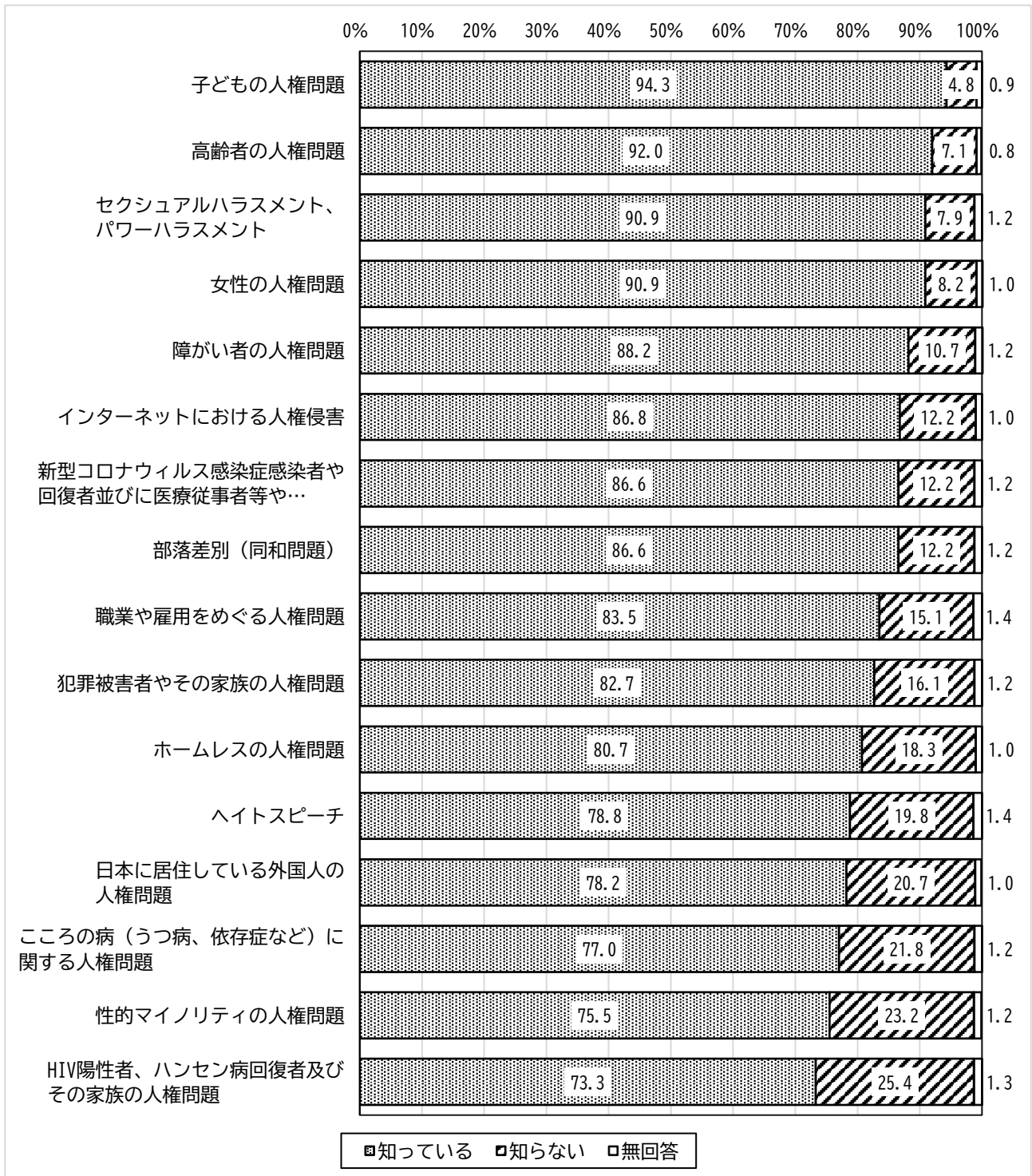
(2)年齢

	回答者数	18~ 19 歳	20~ 29 歳	30~ 39 歳	40~ 49 歳	50~ 59 歳	60~ 69 歳	70 歳 以上	不明
令和 2 年 調査	100.0% 1,553	1.4% 22	8.4% 131	12.3% 191	16.9% 263	18.4% 285	17.3% 269	23.9% 371	1.4% 21
平成 27 年 国勢調査	100.0%	2.4%	12.1%	14.5%	18.2%	13.6%	16.1%	21.4%	1.7%

2 調査結果概要

【問1 あなたは、次の人権問題を知っていますか。】

(それぞれについて、知っている・知らないのどちらかに○)

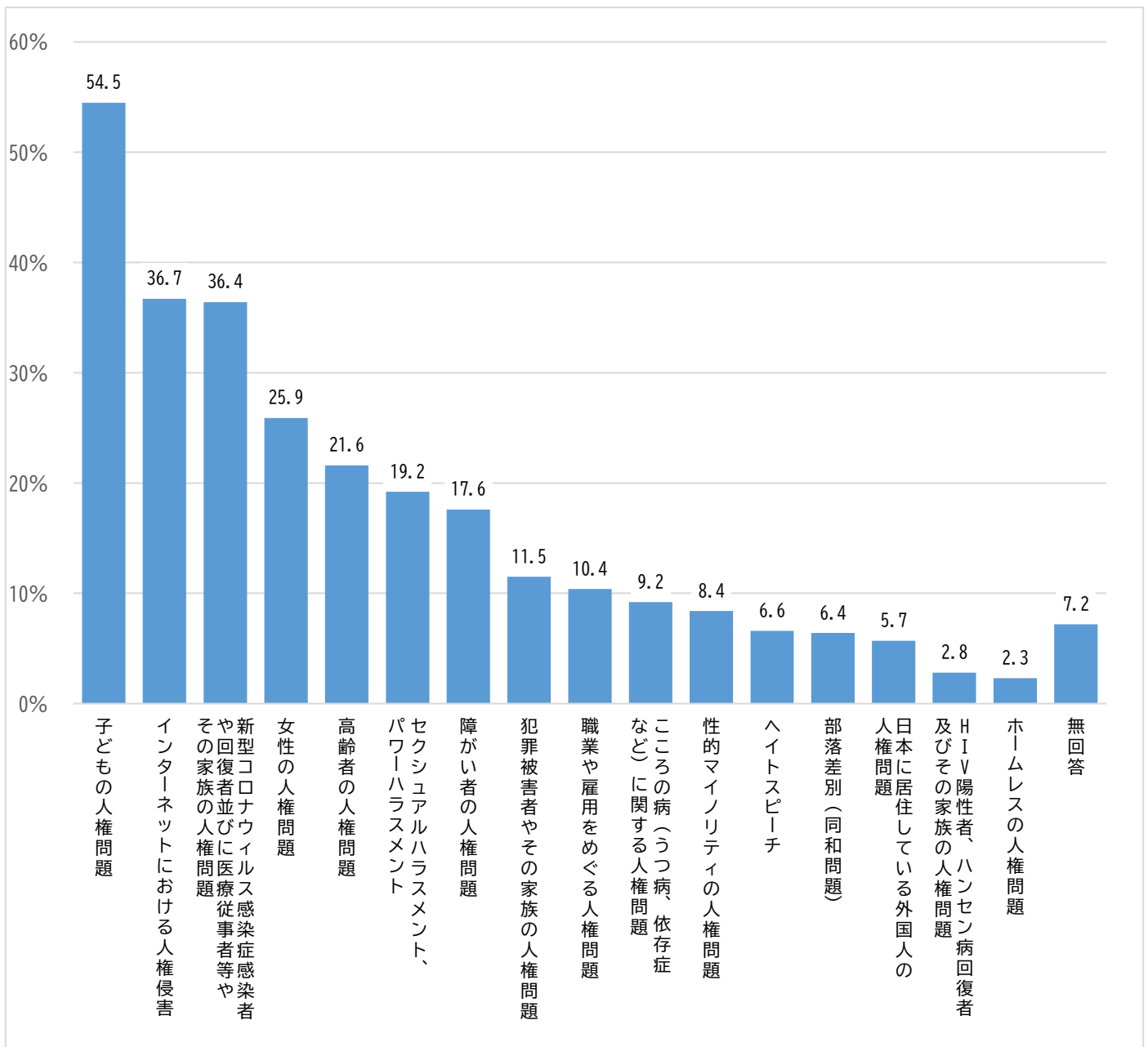


「知っている」と回答した人の割合は、「子どもの人権問題」が 94.3%で最も高く、次いで「高齢者の人権問題」92.0%、「女性の人権問題」90.9%となっている。

一方、「知らない」と回答した割合は、「HIV 陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題」が 25.4%で最も多く、次いで「性的マイノリティの人権問題」23.2%、「こころの病(うつ病、依存症など)に関する人権問題」21.8%となっている。

【問 1-1 あなたが、特に人権上の深刻な問題と考えるものは、次のうちのどれですか。】

(該当するものを 3 つ記入)

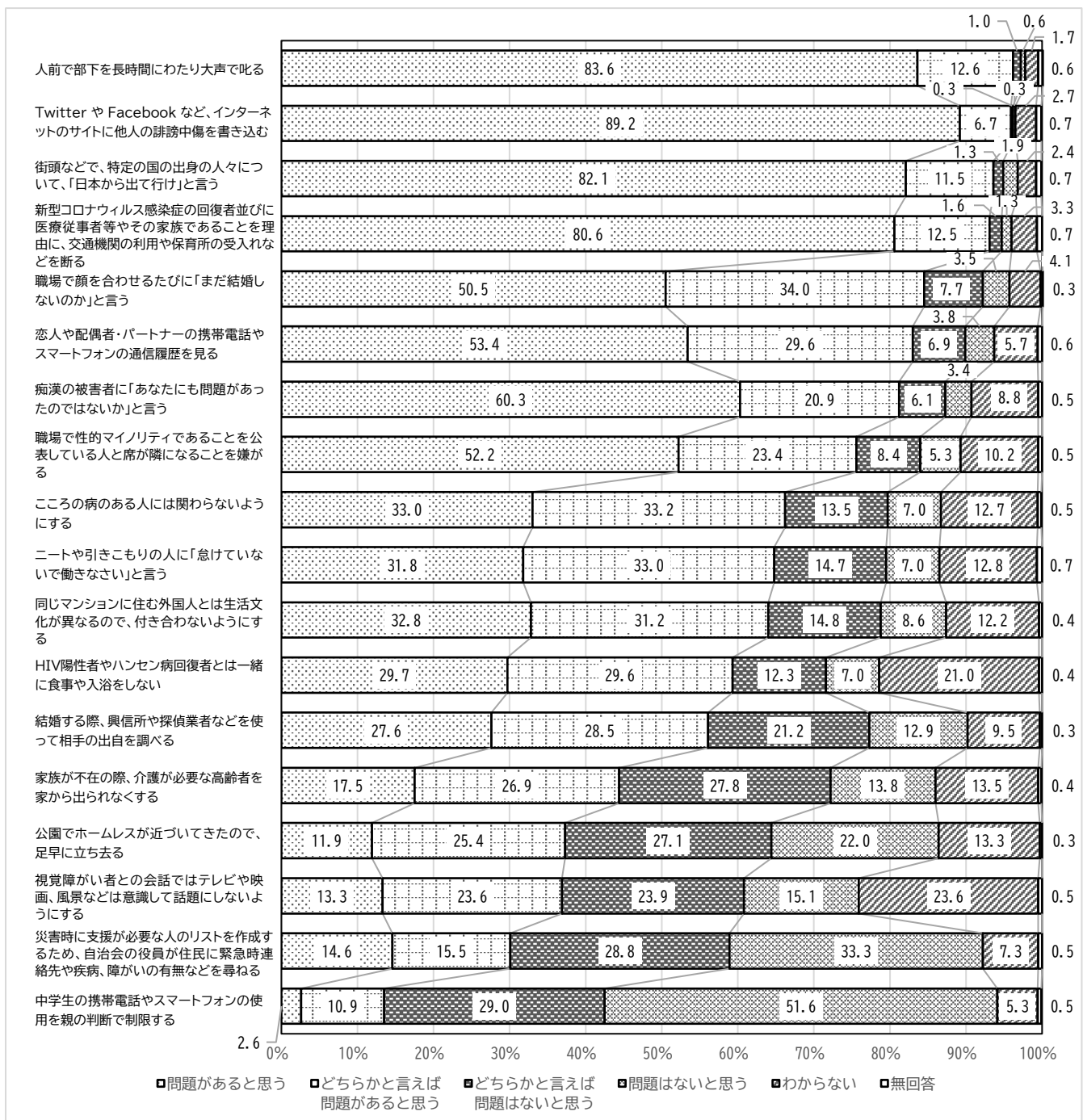


「子どもの人権問題」と回答した人の割合が 54.5%で最も高く、次いで「インターネットにおける人権侵害」36.7%、「新型コロナウイルス感染症感染者や回復者並びに医療従事者等やその家族の人権問題」36.4%となっている。

一方、最も低いのは、「ホームレスの人権問題」で 2.3%、次いで「HIV 陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題」2.8%、ほか「日本に居住している外国人の人権問題」、「部落差別(同和問題)」、「ヘイトスピーチ」、「性的マイノリティの人権問題」、「こころの病(うつ病、依存症など)に関する人権問題」が 10%を下回っている。

【問2 あなたは、次のような行為について、人権上問題があると思いますか。】

(それぞれについて、いずれか1つに○)

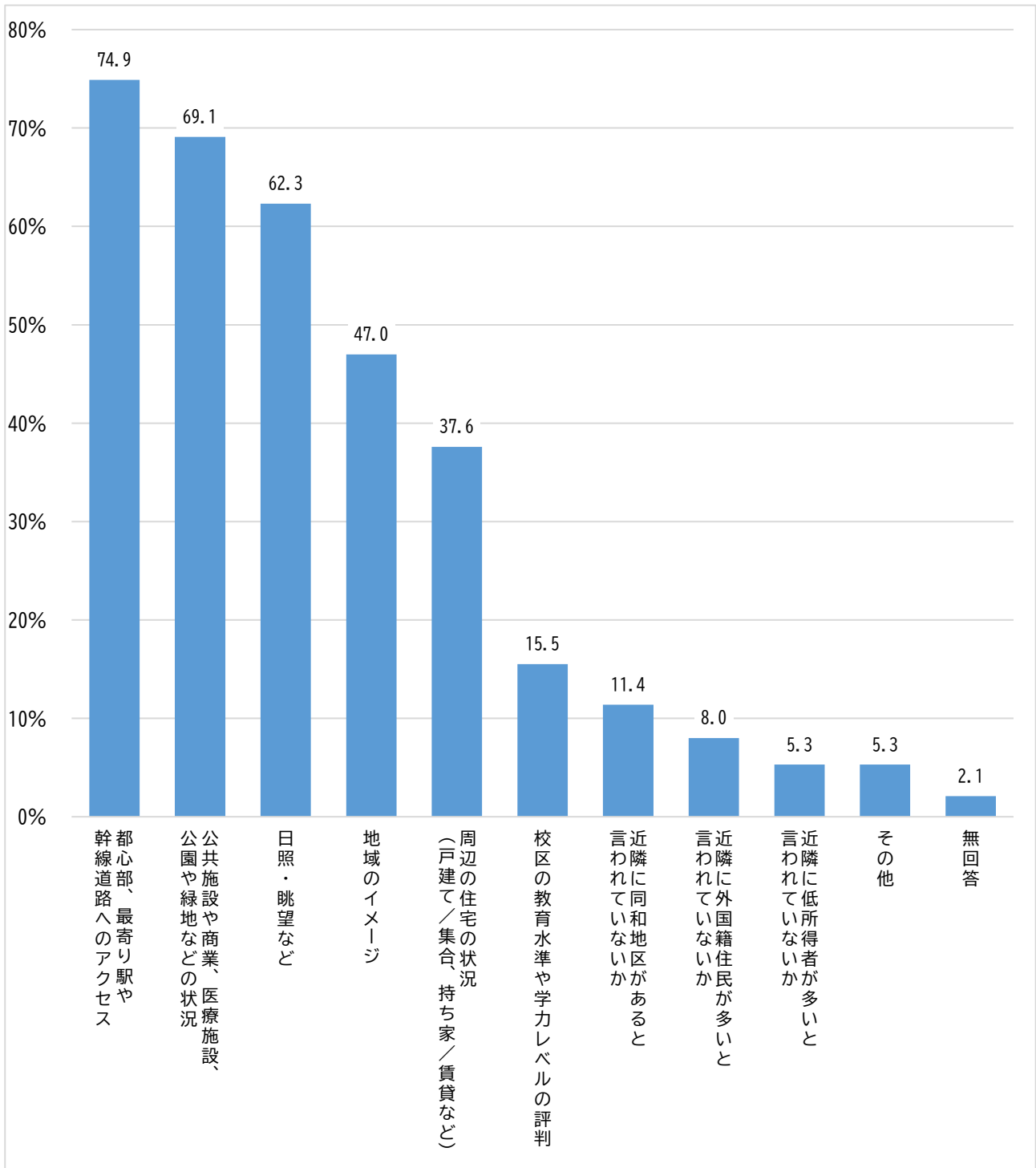


「問題があると思う」又は「どちらかといえば問題があると思う」と回答した人の割合(≡問題があると思う)は、「人前で部下を長時間にわたり大声で叱る」が 96.2%で最も高く、次いで「Twitter や Facebook など、インターネットのサイトに他人の誹謗中傷を書き込む」95.9%、「街頭などで、特定の国の出身の人々について、「日本から出て行け」と言う」93.6%、「新型コロナウイルス感染症の回復者並びに医療従事者等やその家族であることを理由に、交通機関の利用や保育所の受入れなどを断る」93.1%となっている。

一方、「問題はないと思う」又は「どちらかといえば問題はないと思う」と回答した人の割合(≡問題はないと思う)は、「中学生の携帯電話やスマートフォンの使用を親の判断で制限する」が 80.6%で最も多く、次いで「災害時に支援が必要な人のリストを作成するため、自治会の役員が住民に緊急時連絡先や疾病、障がいの有無などを尋ねる」62.1%、「公園でホームレスが近づいてきたので、足早に立ち去る」49.1%、「家族が不在の際、介護が必要な高齢者を家から出られなくする」41.6%となっている。

【問3 あなたが家を買ったり借りたりする際に重視する(した)立地条件は何ですか。】

(〇はいくつでも)

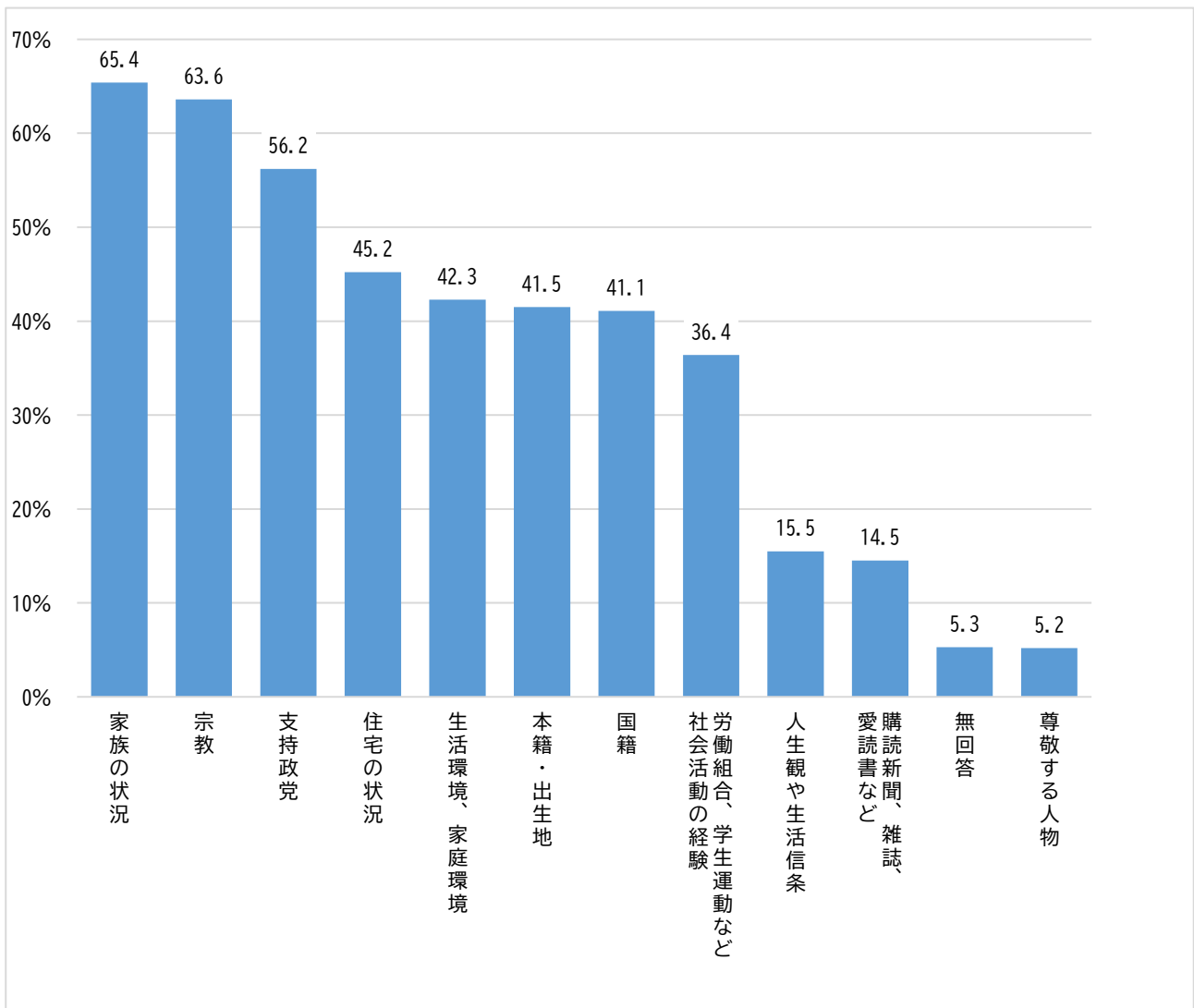


物理的な立地条件以外では、「地域のイメージ」と回答した人の割合が 47.0%と突出して高く、次いで「校区の教育水準や学力レベルの評判」15.5%、「近隣に同和地区があるとされているか」11.4%となっている。

「その他」の自由記述は、物理的な立地条件以外では、「治安、犯罪などに対する安全性」(8件)が多かった。

【問3-1 採用面接における質問で、あなたが人権上問題があると思うことはどれですか。】

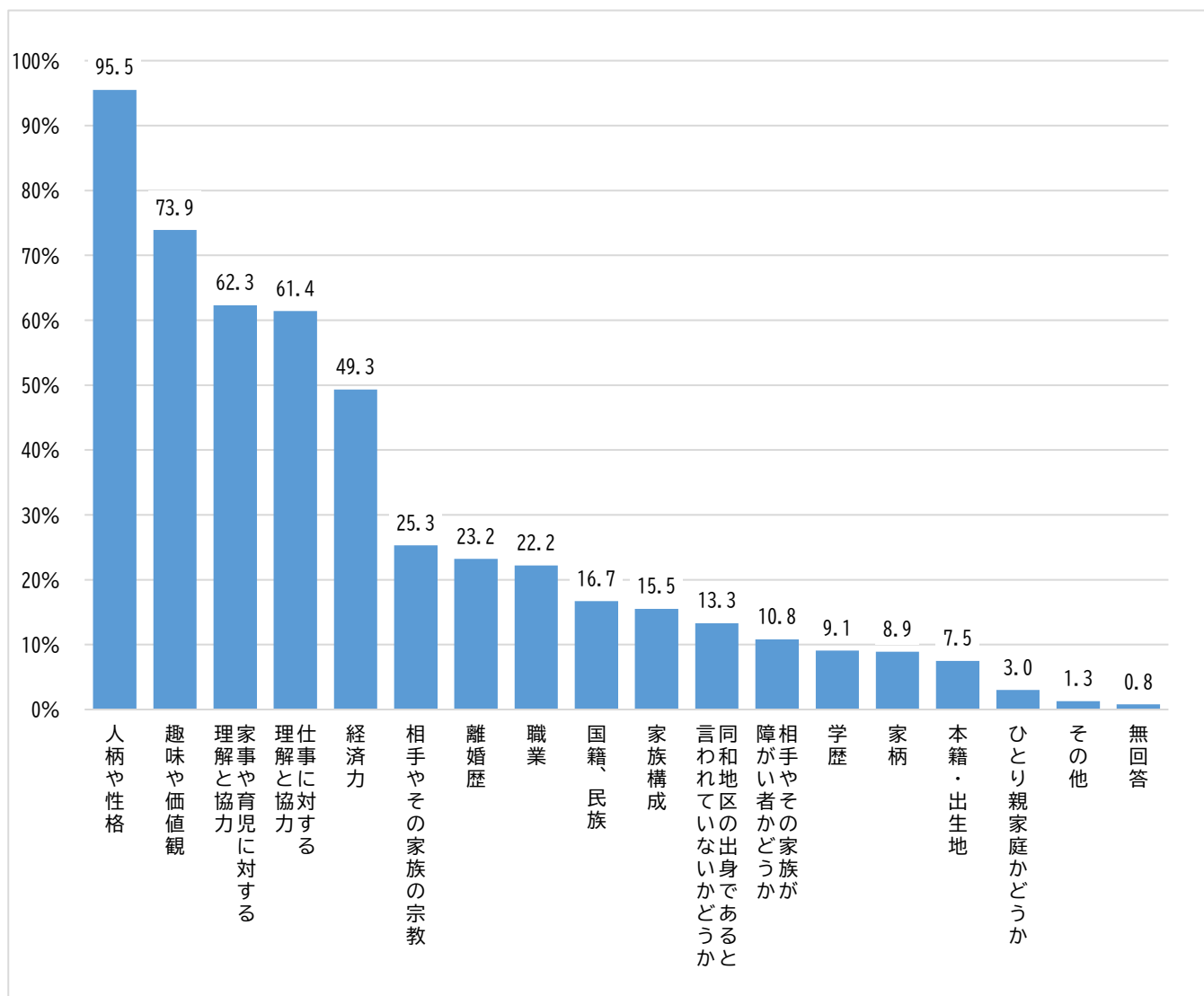
(〇はいくつでも)



「家族の状況」と回答した人の割合が65.4%で最も高く、次いで「宗教」63.6%、「支持政党」56.2%となっている。

一方、最も低いのは「尊敬する人物」で5.2%、次いで「購読新聞・雑誌、愛読書など」14.5%、「人生観や生活信条」15.5%となっている。

【問3-2 あなたが、結婚相手など、パートナーを決めるとしたら、その人について重視することはどんなことだと思いますか。】（〇はいくつでも）

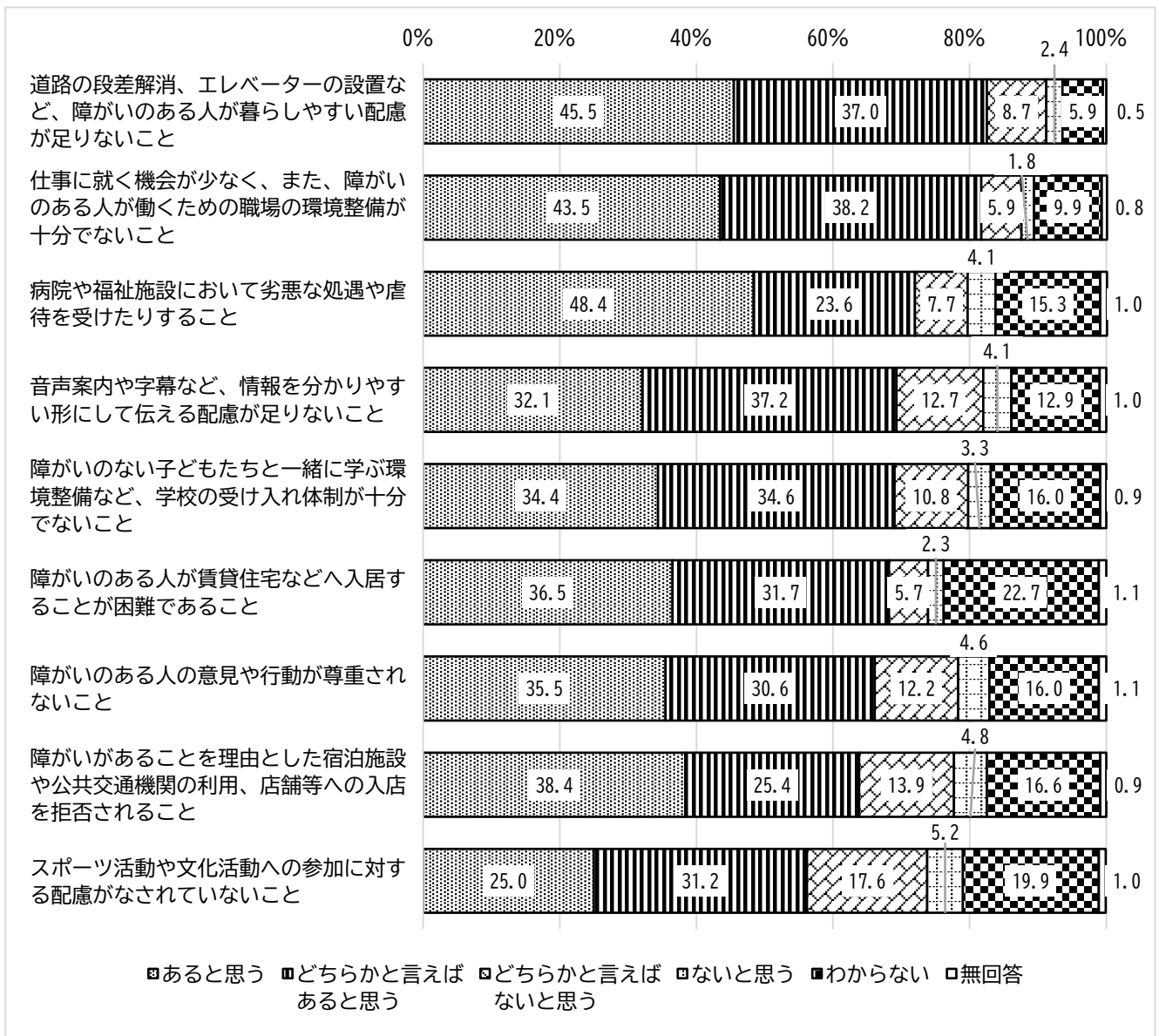


「人柄や性格」と回答した人の割合が 95.5%で最も高く、次いで「趣味や価値観」73.9%、「家事や育児に対する理解と協力」62.3%、「仕事に対する理解と協力」61.4%となっている。

一方、最も低いのは「ひとり親家庭かどうか」で 3.0%、次いで「本籍・出生地」7.5%、「家柄」8.9%、「学歴」9.1%となっている。

「その他」の自由記述は、「健康(状態)」(3件)、「家族の人柄や性格」(2件)、等となっている。

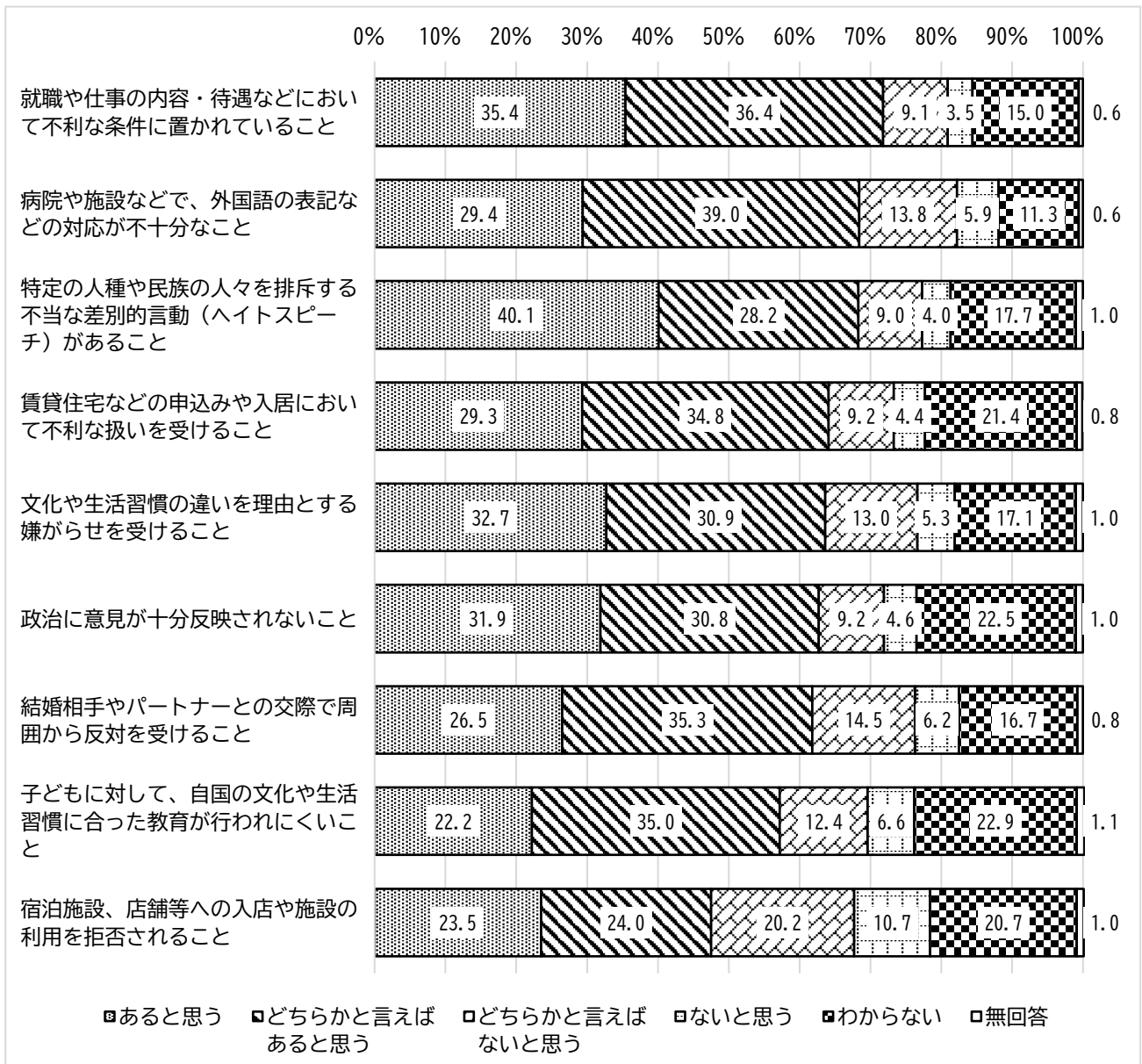
【問4 あなたは現在、障がいのある人に関して、次に見られるような人権侵害や問題などがあると思いますか。】（それぞれについて、いずれか1つに○）



「あると思う」又は「どちらかと言えばあると思う」と回答した人の割合（≒あると思う）は、「道路の段差解消、エレベーターの設置など、障がいのある人が暮らしやすい配慮が足りないこと」が 82.5%で最も高く、次いで「仕事に就く機会が少なく、また、障がいのある人が働くための職場の環境整備が十分でないこと」81.7%、「病院や福祉施設において劣悪な処遇や虐待を受けたりすること」72.0%となっている。

一方、「ないと思う」又は「どちらかと言えばないと思う」と回答した人の割合（≒ないと思う）は、「スポーツ活動や文化活動への参加に対する配慮がなされていないこと」が 22.8%で最も多く、次いで「障がいがあることを理由とした宿泊施設や公共交通機関の利用、店舗等への入店を拒否されること」が 18.7%、「音声案内や字幕など、情報を分かりやすい形にして伝える配慮が足りないこと」、「障がいのある人の意見や行動が尊重されないこと」がそれぞれ 16.8%となっている。

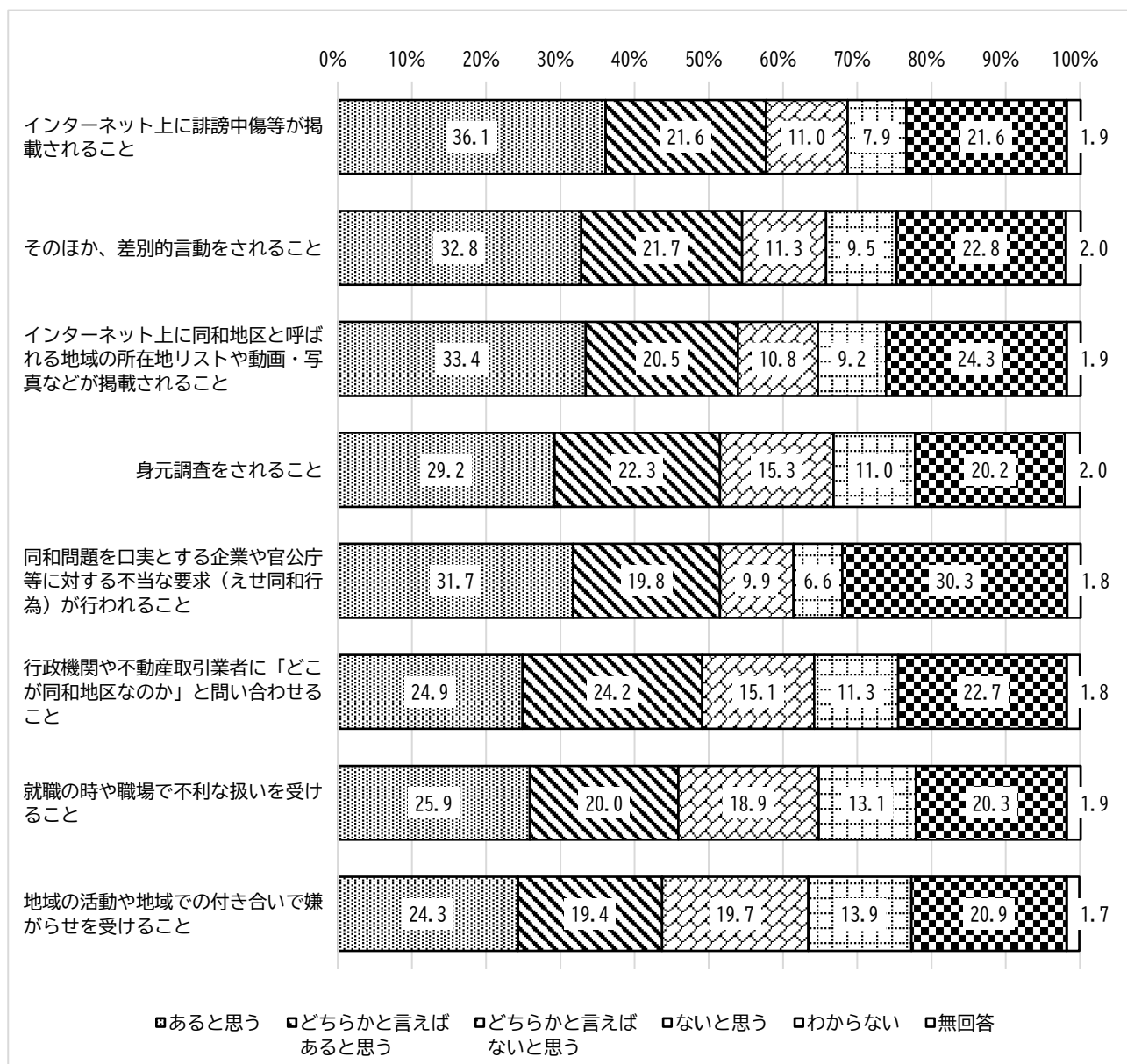
【問5 あなたは現在、日本に居住している外国人に関して、次に見られるような人権侵害や問題などがあるといますか。】（それぞれについて、いずれか1つに○）



「あると思う」又は「どちらかと言えばあると思う」と回答した人の割合（≡あると思う）は、「就職や仕事の内容・待遇などにおいて不利な条件に置かれていること」が 71.8%で最も高く、次いで「病院や施設などで、外国語の表記などの対応が不十分なこと」68.4%、「特定の人種や民族の人々を排斥（はいせき）する不当な差別的言動（ヘイトスピーチ）があること」68.3%となっている。

一方、「ないと思う」又は「どちらかと言えばないと思う」と回答した人の割合（≡ないと思う）は、「宿泊施設、店舗等への入店や施設の利用を拒否されること」が 30.9%で最も多く、次いで「結婚相手やパートナーとの交際で周囲から反対を受けること」が 20.7%、「病院や施設などで、外国語の表記などの対応が不十分なこと」が 19.7%、「子どもに対して、自国の文化や生活習慣に合った教育が行われにくいこと」が 19.0%となっている。

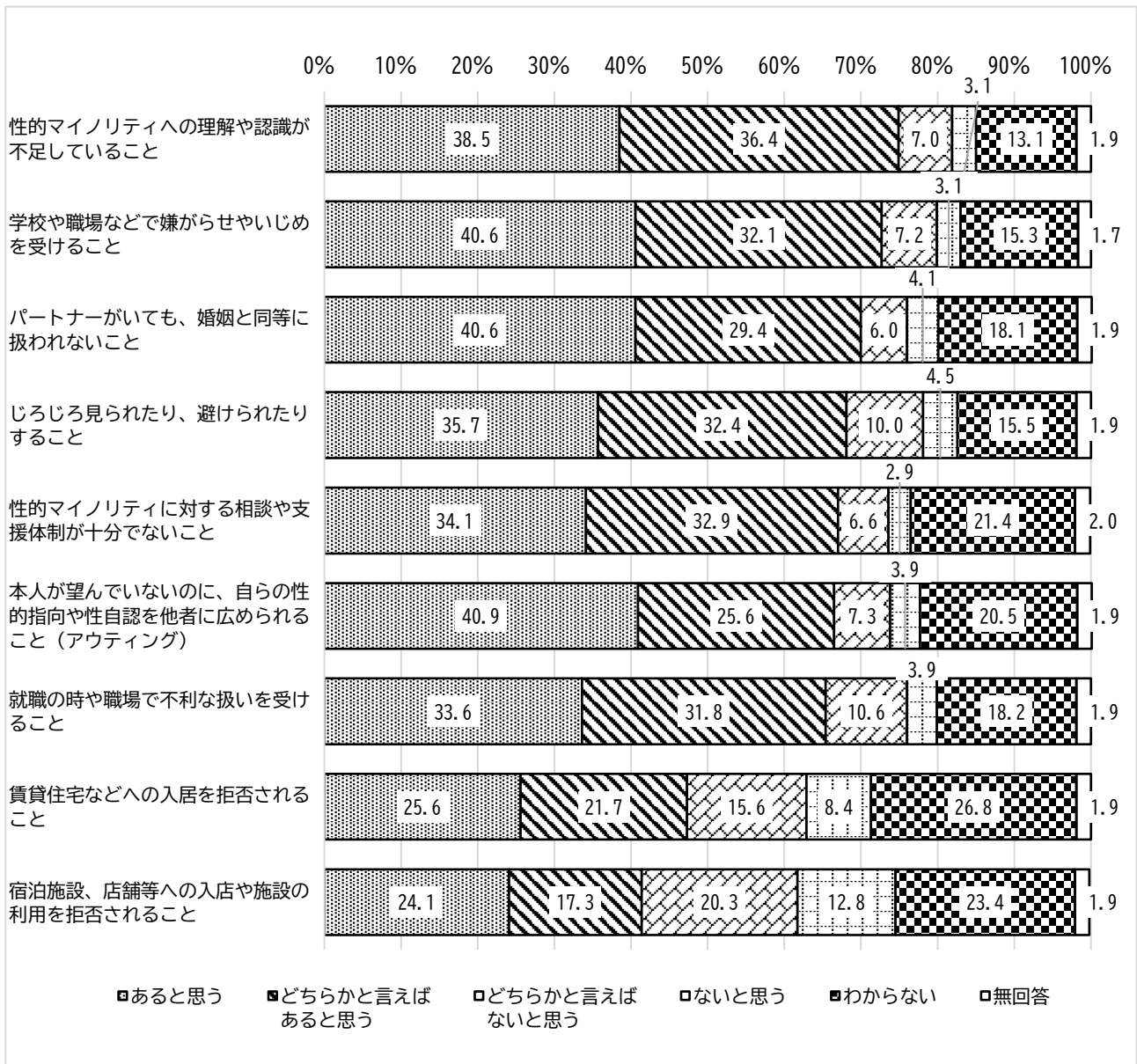
【問6 あなたは現在、部落差別(同和問題)に関して、次に見られるような人権侵害や問題などがあると思いますか。】(それぞれについて、いずれか1つに○)



「あると思う」又は「どちらかと言えばあると思う」と回答した人の割合(≒あると思う)は、「インターネット上に誹謗中傷等が掲載されること」が 57.7%で最も高く、次いで「そのほか、差別的言動をされること」54.5%、「インターネット上に同和地区と呼ばれる地域の所在地リストや動画・写真などが掲載されること」53.9%となっている。

一方、「ないと思う」又は「どちらかと言えばないと思う」と回答した人の割合(≒ないと思う)は、「地域の活動や地域での付き合いで嫌がらせを受けること」が 33.6%で最も多く、次いで「就職の時や職場で不利な扱いを受けること」が 32.0%となっている。

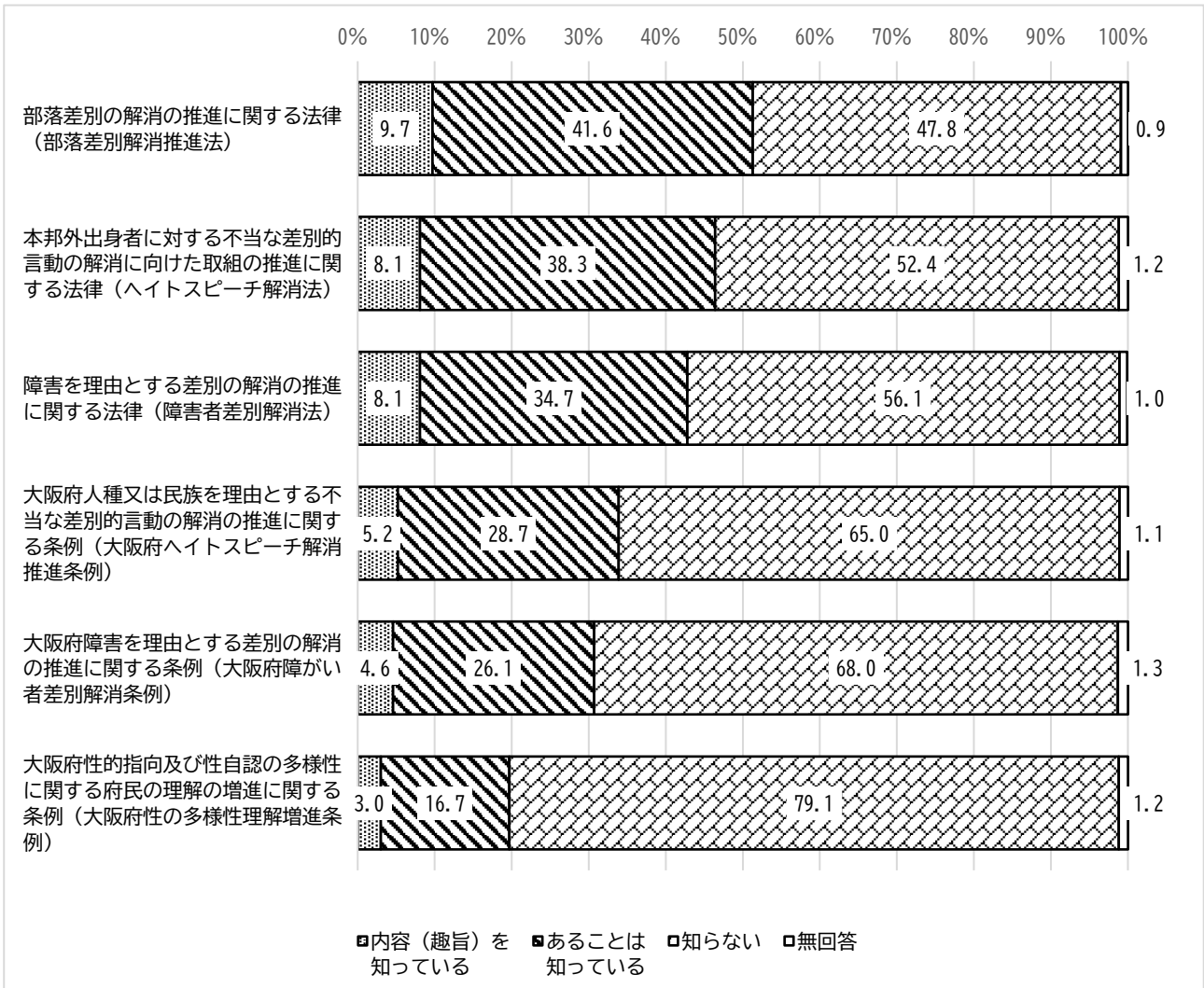
【問7 あなたは現在、性的マイノリティに関して、次に見られるような人権侵害や問題などがあると思いますか。】（それぞれについて、いずれか1つに○）



「あると思う」又は「どちらかと言えばあると思う」と回答した人の割合（≒あると思う）は、「性的マイノリティへの理解や認識が不足していること」が 74.9%で最も高く、次いで「学校や職場などで嫌がらせやいじめを受けること」72.7%、「パートナーがいても、婚姻と同等に扱われないこと」70.0%となっている。

一方、「ないと思う」又は「どちらかと言えばないと思う」と回答した人の割合（≒ないと思う）は、「宿泊施設、店舗等への入店や施設の利用を拒否されること」が 33.1%で最も多く、次いで「賃貸住宅などへの入居を拒否されること」が 24.0%となっている。

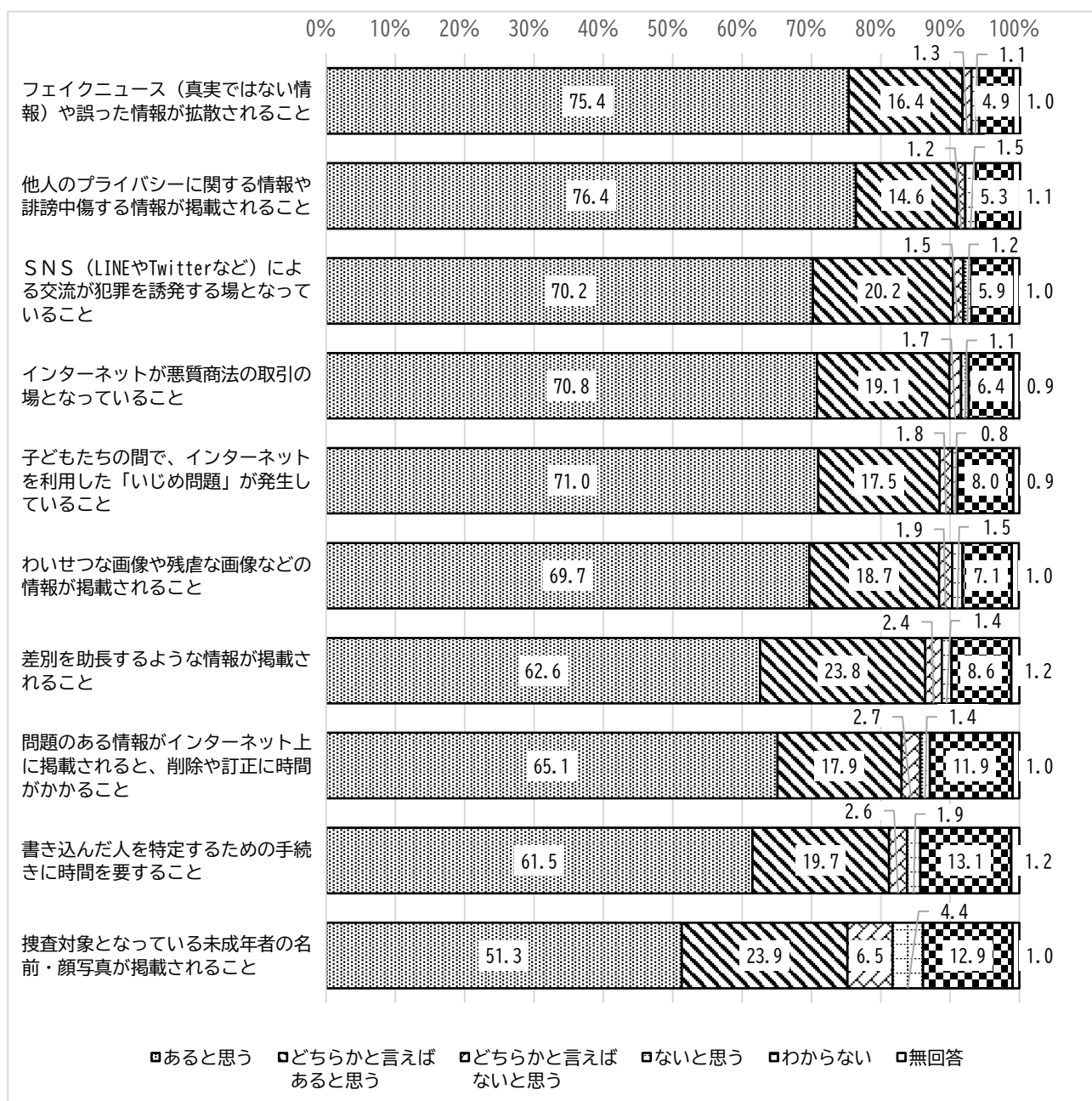
【問8 あなたは、次の法律や条例について知っていますか。】



「内容（趣旨）を知っている」又は「あることは知っている」と回答した人の割合（≒知っている）は、「部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）」が 51.3%で最も高く、次いで「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律（ヘイトスピーチ解消法）」46.4%、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」42.8%となっている。

一方、「知らない」と回答した人の割合は、「大阪府性的指向及び性自認の多様性に関する府民の理解の増進に関する条例（大阪府性の多様性理解増進条例）」が 79.1%で最も多く、次いで「大阪府障害を理由とする差別の解消の推進に関する条例（大阪府障がい者差別解消条例）」が 68.0%、「大阪府人種又は民族を理由とする不当な差別的言動の解消の推進に関する条例（大阪府ヘイトスピーチ解消推進条例）」が 65.0%となっている。

【問9 あなたは現在、インターネットに関して、次に見られるような人権侵害や問題などがあると思いますか。】（それぞれについて、いずれか1つに○）

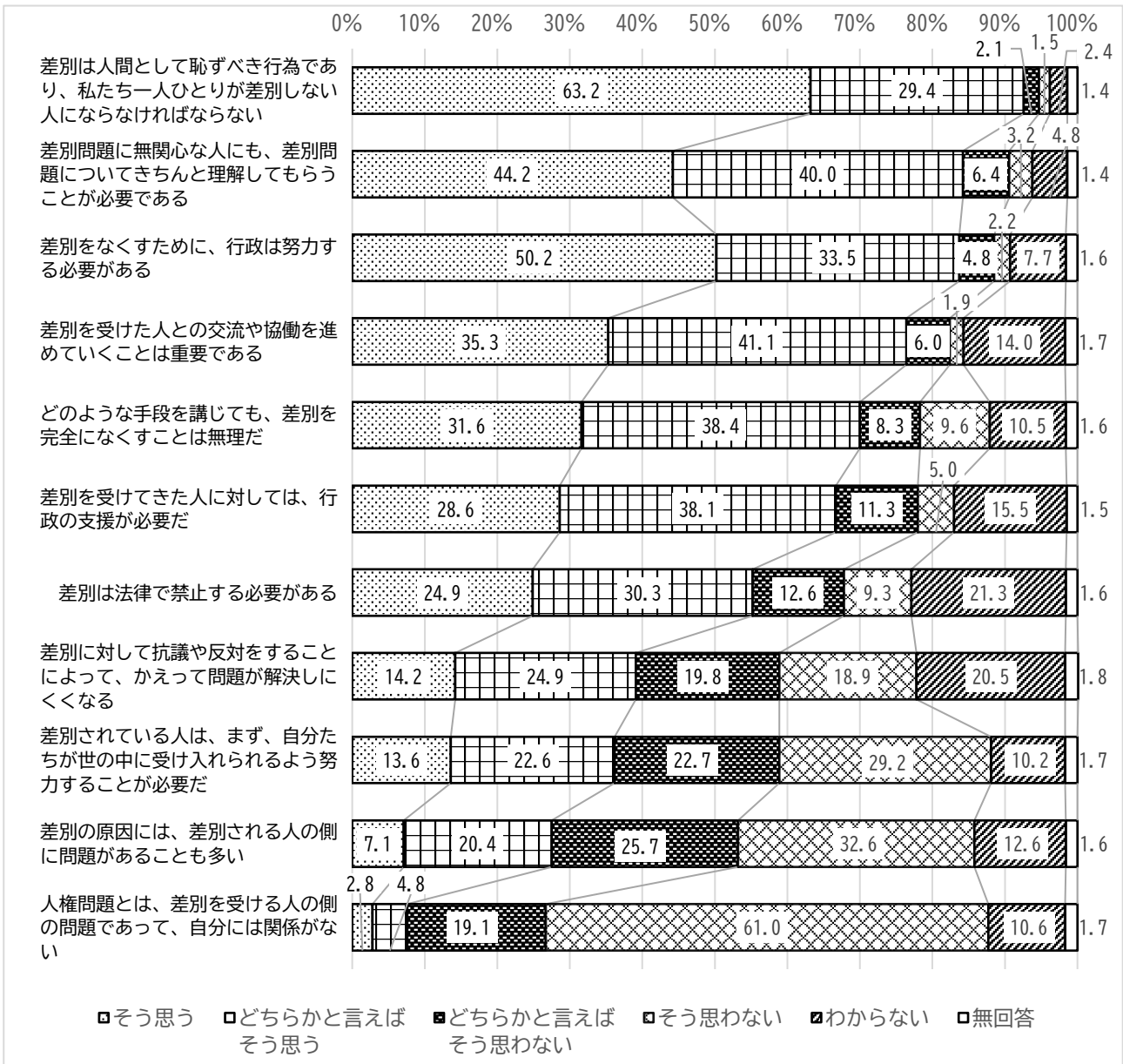


「あると思う」又は「どちらかと言えばあると思う」と回答した人の割合（≒あると思う）は、「フェイクニュース（真実ではない情報）や誤った情報が拡散されること」が 91.8%で最も高く、次いで「他人のプライバシーに関する情報や誹謗中傷する情報が掲載されること」91.0%、「SNS（LINE や Twitter など）による交流が犯罪を誘発する場となっていること」90.4%となっている。

一方、「ないと思う」又は「どちらかと言えばないと思う」と回答した人の割合（≒ないと思う）は、「捜査対象となっている未成年者の名前・顔写真が掲載されること」が 10.9%で最も多く、次いで「書き込んだ人を特定するための手続きに時間を要すること」が 4.5%、「問題のある情報がインターネット上に掲載されると、削除や訂正に時間がかかること」が 4.1%となっている。

【問10 人権や差別をめぐるいろいろな考え方がありますが、あなたの考えに最も近いのはどれですか。】

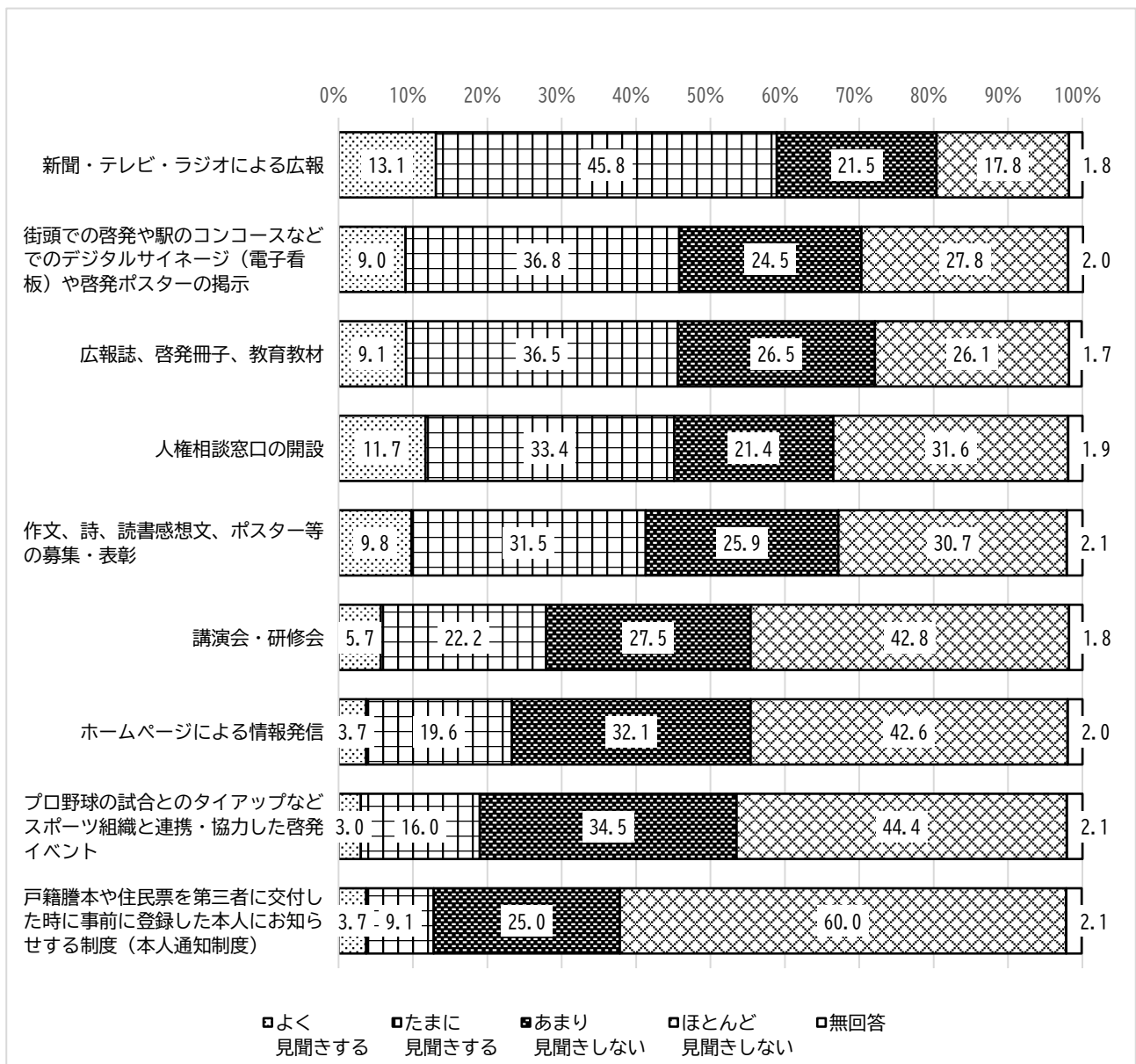
(それぞれについて、いずれか1つに○)



「そう思う」又は「どちらかと言えばそう思う」と回答した人の割合(≒そう思う)は、「差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない」が 92.6%で最も高く、次いで「差別問題に関心のない人にも、差別問題についてきちんと理解してもらう必要がある」84.2%、「差別をなくすために、行政は努力する必要がある」83.7%となっている。

一方、「そう思わない」又は「どちらかと言えばそう思わない」と回答した人の割合(≒そう思わない)は、「人権問題とは、差別を受ける人の側の問題であって、自分には関係がない」が 80.1%で最も多く、次いで「差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い」58.3%、「差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ」51.9%、「差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる」38.7%となっている。

【問 11 あなたは、人権問題の解決に向けた次のような行政の取組みについて、見聞きする(した)ことがありますか。】(それぞれについて、いずれか1つに○)

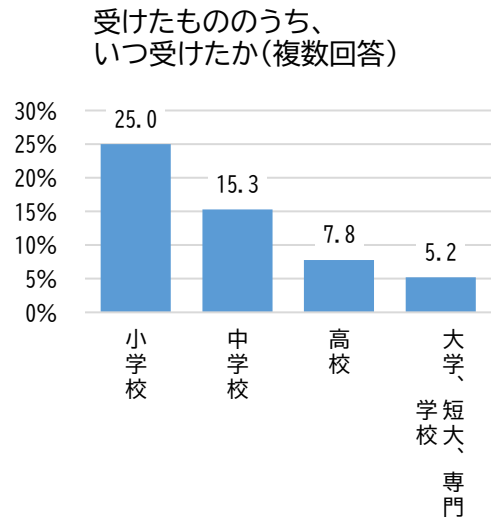
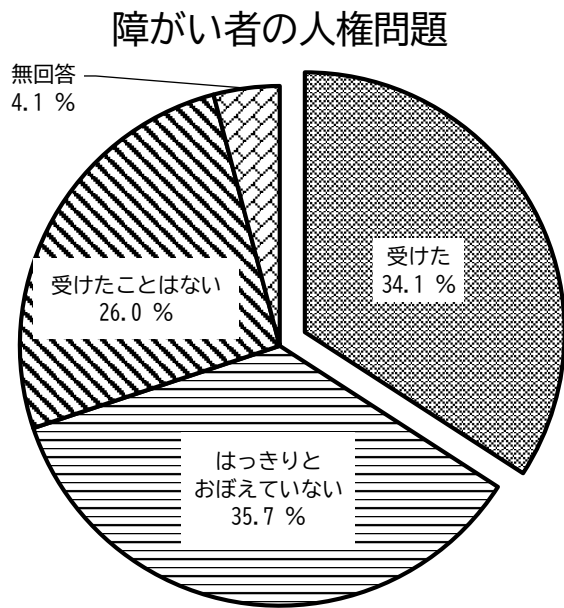


「よく見聞きする」又は「たまに見聞きする」と回答した人の割合(≒見聞きする)は、「新聞・テレビ・ラジオによる広報」が 58.9%で最も高く、次いで「街頭での啓発や駅のコンコースなどでのデジタルサイネージ(電子看板)や啓発ポスターの掲示」45.8%、「広報誌、啓発冊子、教育教材」45.6%、「人権相談窓口の開設」45.1%となっている。

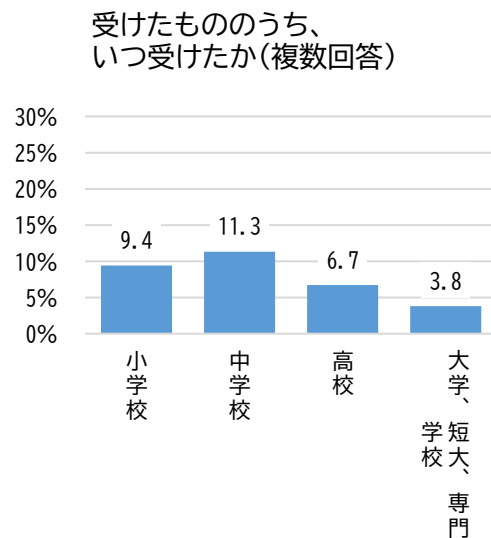
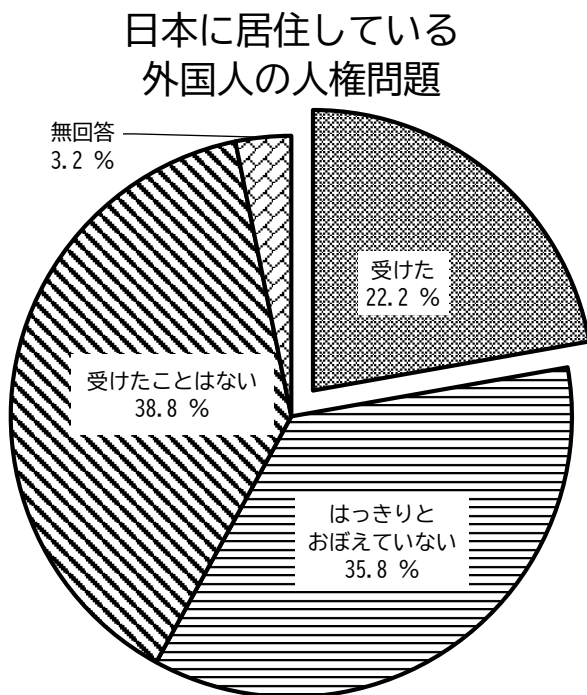
一方、「あまり見聞きしない」又は「ほとんど見聞きしない」と回答した人の割合(≒見聞きしない)は、「戸籍謄本や住民票を第三者に交付した時に事前に登録した本人にお知らせする制度(本人通知制度)」が 85.0%で最も高く、次いで「プロ野球の試合とのタイアップなど、スポーツ組織と連携・協力した啓発イベント」が 78.9%、「ホームページによる情報発信」が 74.7%となっている。

【問 12 あなたは、学校で、次にあげる人権学習を受けたことがありますか。】

(○はいくつでも)

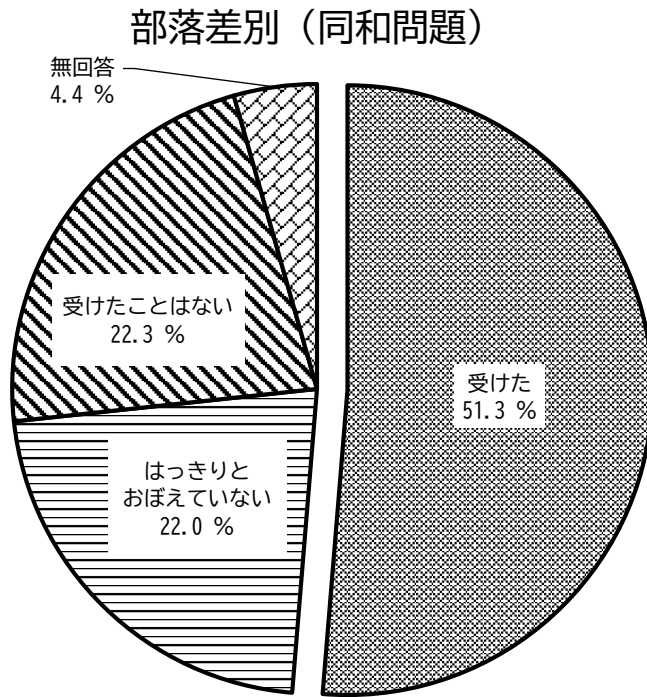


障がい者の人権問題についての学習経験で、最も高かったのは「はっきりとおぼえていない」で 35.7%、二番目に高かったのは「受けたことはない」で 26.0%となっている。「受けた」の中では「小学校で受けた」が一番多く、25.0%となっている。

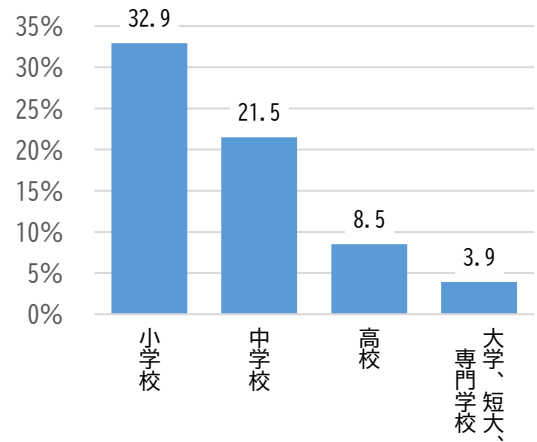


日本に居住している外国人の人権問題についての学習経験で、最も高かったのは「受けたことはない」で 38.8%、二番目に高かったのは「はっきりとおぼえていない」で 35.8%となっている。「受けた」の中では「中学校で受けた」が一番多く、11.3%となっている。

【問 12 つづき】

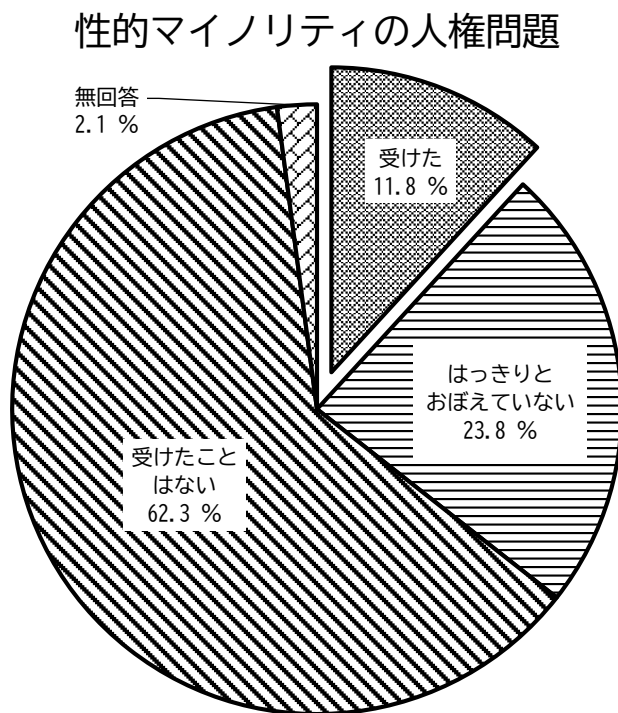


受けたもののうち、いつ受けたか(複数回答)

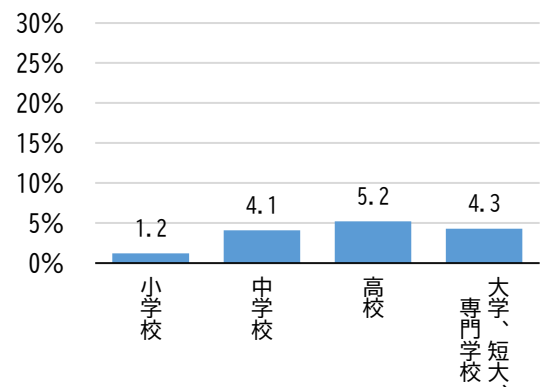


部落差別(同和問題)についての学習経験で、最も高かったのは「受けた」で 51.3%。なお、「小学校で受けた」が一番多く、32.9%となっている。

二番目に高かったのは「受けたことはない」で 22.3%、次いで「はっきりとおぼえていない」22.0%となっている。



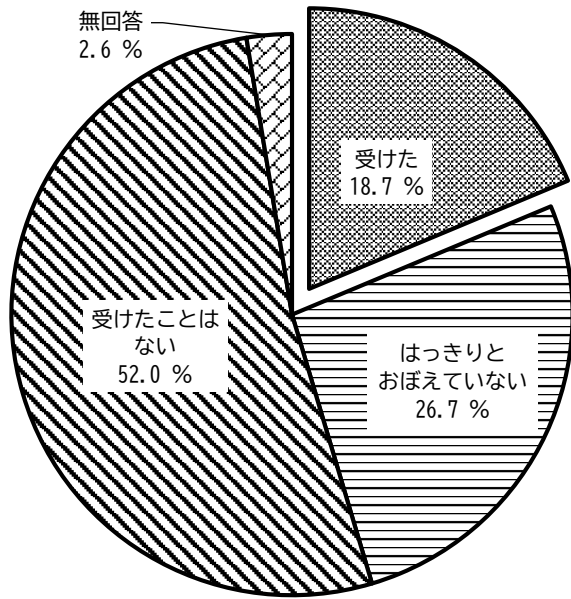
受けたもののうち、いつ受けたか(複数回答)



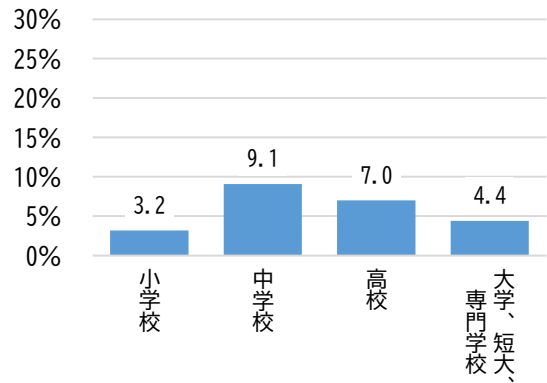
性的マイノリティの人権問題についての学習経験で、最も高かったのは「受けたことはない」で 62.3%、二番目に高かったのは「はっきりとおぼえていない」で 23.8%となっている。「受けた」の中では「高校で受けた」が一番多く、5.2%となっている。

【問 12 つづき】

H I V陽性者、ハンセン病回復者 及びその家族の人権問題

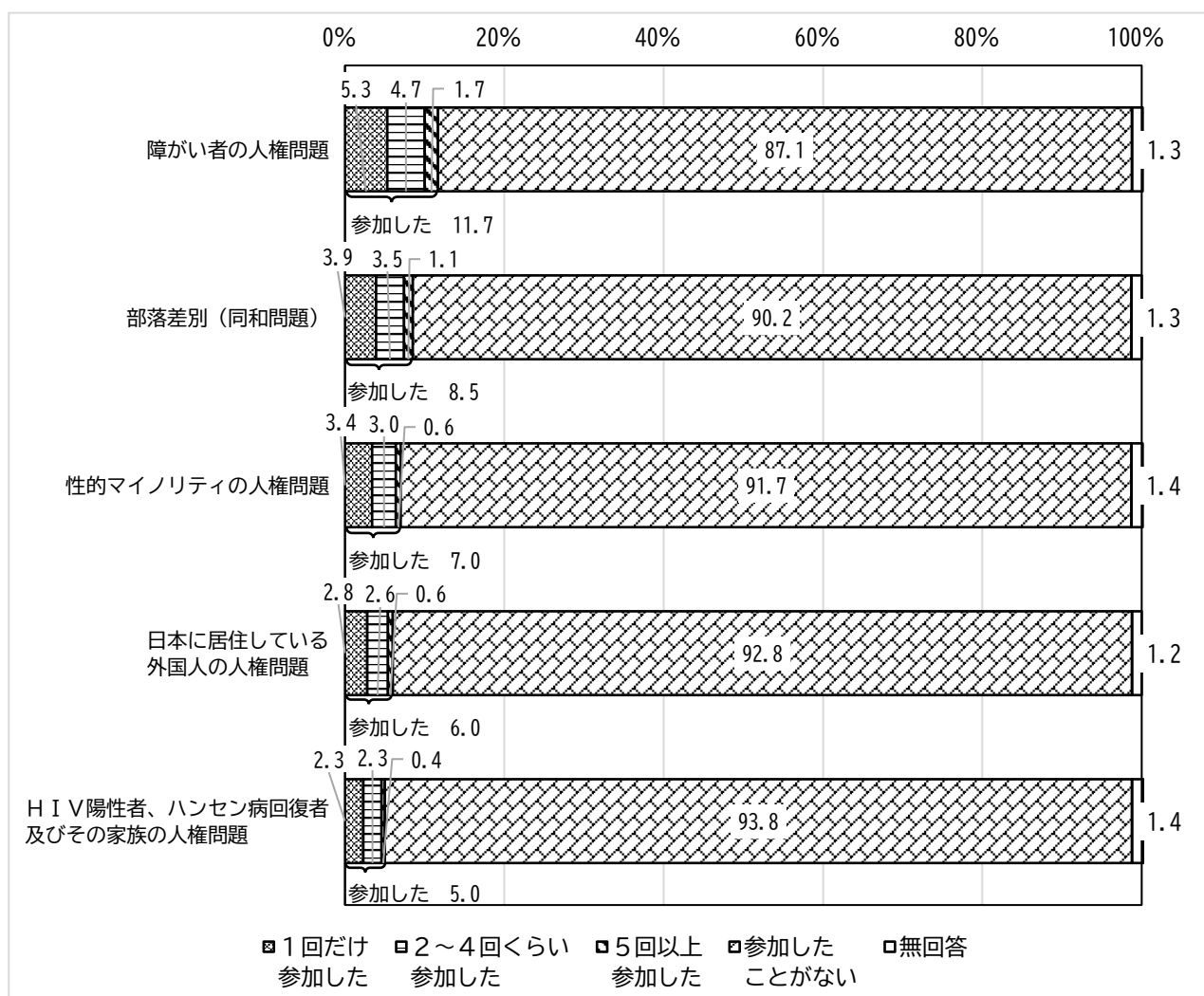


受けたもののうち、
いつ受けたか(複数回答)



HIV陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題についての学習経験で、最も高かったのは「受けたことはない」で52.0%、二番目に高かったのは「はっきりとおぼえていない」で26.7%となっている。「受けた」の中では「中学校で受けた」が一番多く、9.1%となっている。

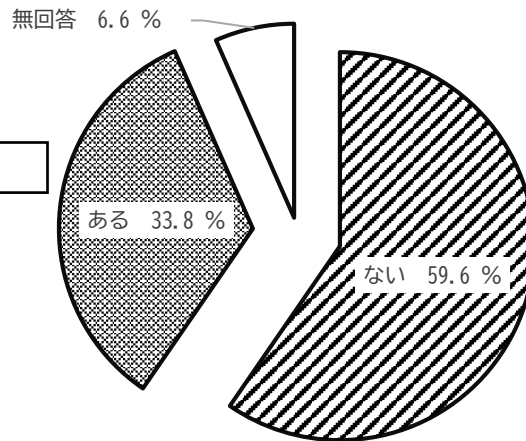
【問 13 あなたは、最近5年間で、次にあげる人権問題に関するイベント、講演会、研修会、学習会などに参加したことがありますか。】（それぞれについて、いずれか1つに○）



「1回だけ参加した」、「2~4回くらい参加した」又は「5回以上参加した」と回答した人の割合（≡参加した）は、「障がい者の人権問題」が11.7%で最も高く、次いで「部落差別（同和問題）」8.5%、「性的マイノリティの人権問題」7.0%となっている。

【問 14 あなたは、最近5年間に人権上問題と思われる言動を受けたり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。複数ある場合は、一番印象に残っているものについてお答えください。】

(いずれか1つに○)

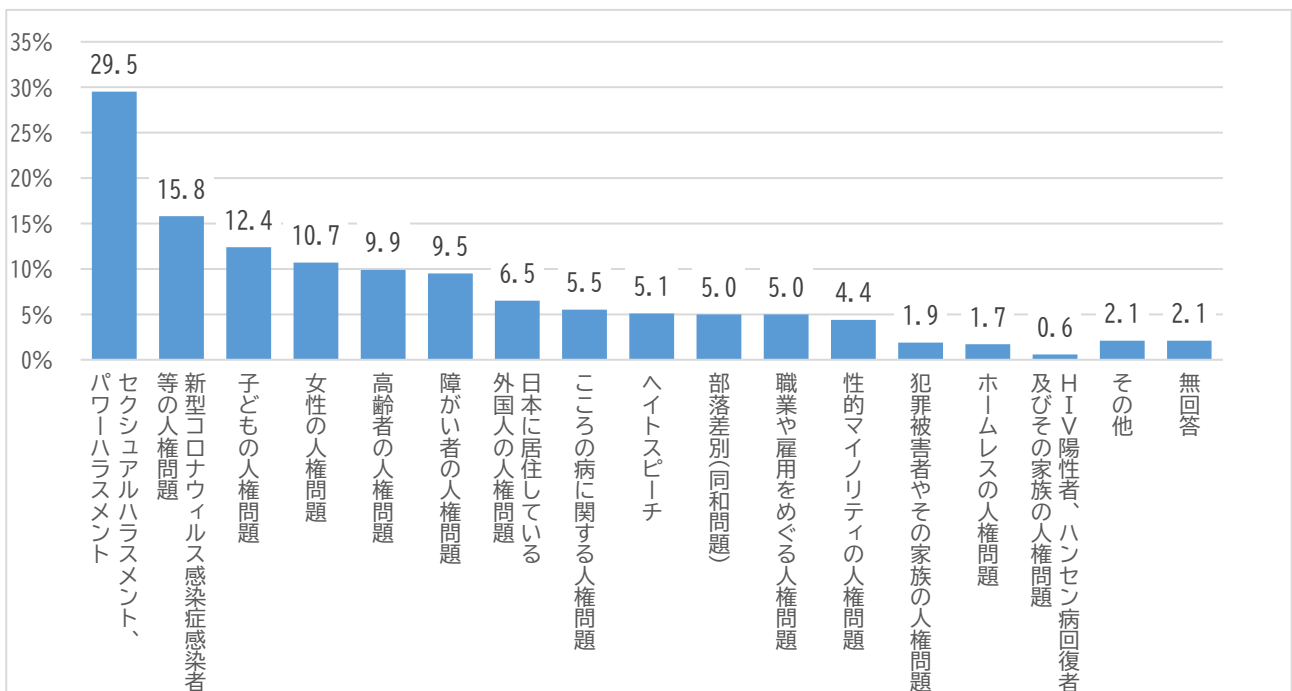


「ある」と回答した人の割合は33.8%と、「ない」59.6%を25.8ポイント下回っている。

【問 14 で「ある」と回答した人】

【問 14-1 それほどのような人権問題に関するものでしたか。】

(いずれか1つに○)

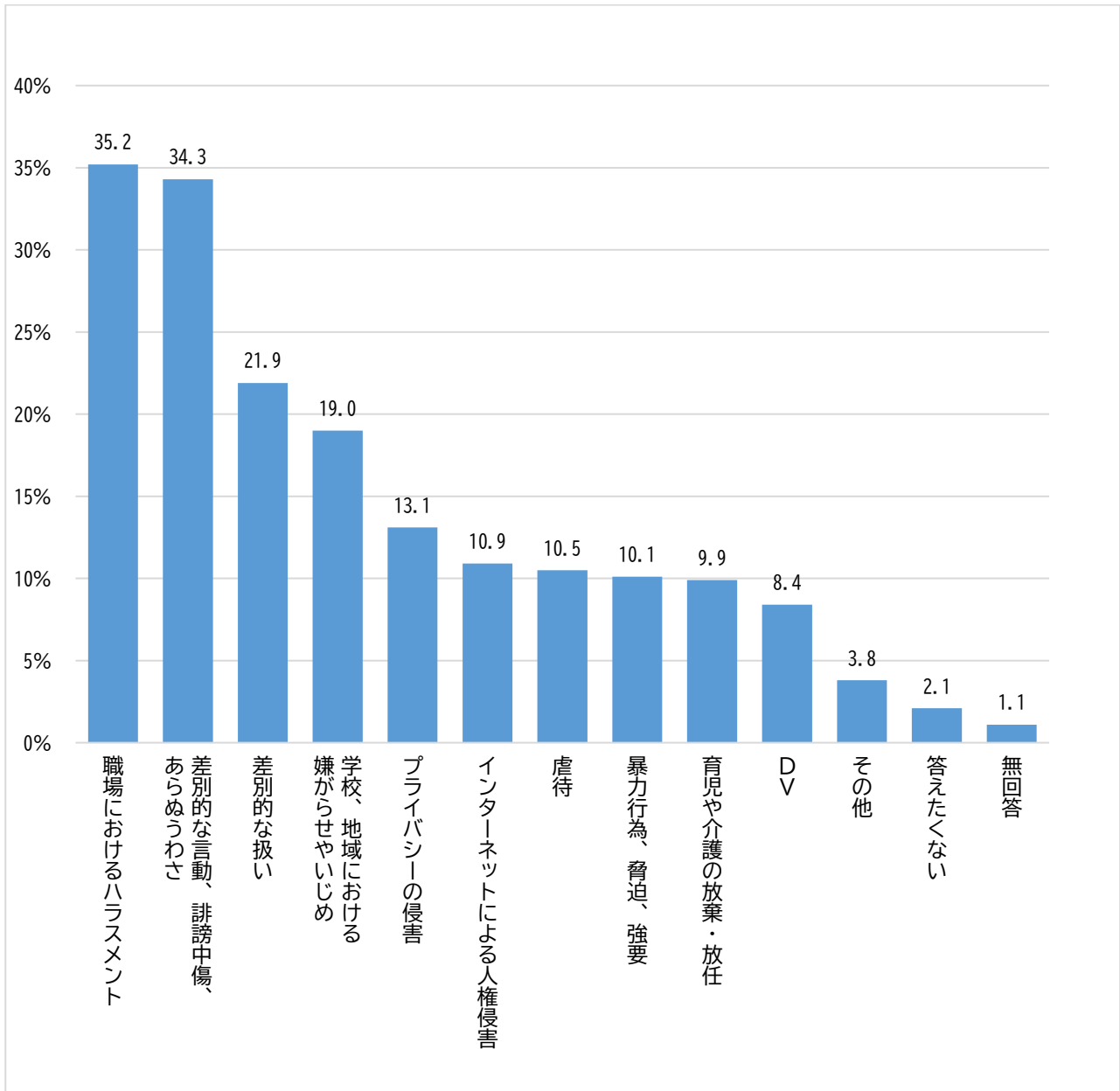


「セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント」と回答した人の割合が29.5%で最も高く、次いで「新型コロナウイルス感染症感染者や回復者並びに医療従事者等やその家族の人権問題」15.8%、「子どもの人権問題」12.4%、「女性の人権問題」10.7%となっている。

一方、最も低いのは「HIV 陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題」で0.6%、次いで「ホームレスの人権問題」1.7%、「犯罪被害者やその家族の人権問題」1.9%となっている。

「その他」の自由記述は、「近所の住民間」(2件)、「母子家庭」(1件)、等となっている。

【問 14-2 それほどのような内容でしたか。】（○はいくつでも）

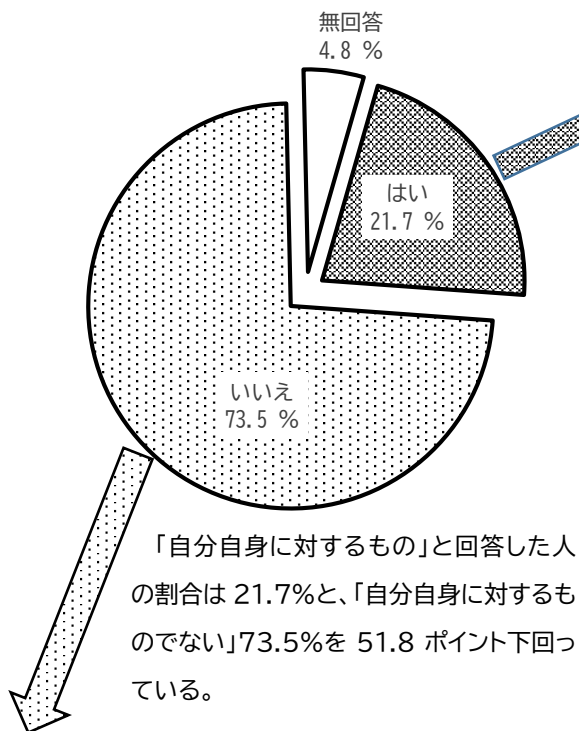


「職場におけるハラスメント」と回答した人の割合が 35.2%で最も高く、次いで「差別的な言動、誹謗中傷、あらぬうわさ」34.3%、「差別的な扱い」21.9%、「学校、地域における嫌がらせやいじめ」19.0%となっている。

「その他」の自由記述は、「行動の制限」(2件)、「高齢に伴う給料格差」(1件)、等となっている。

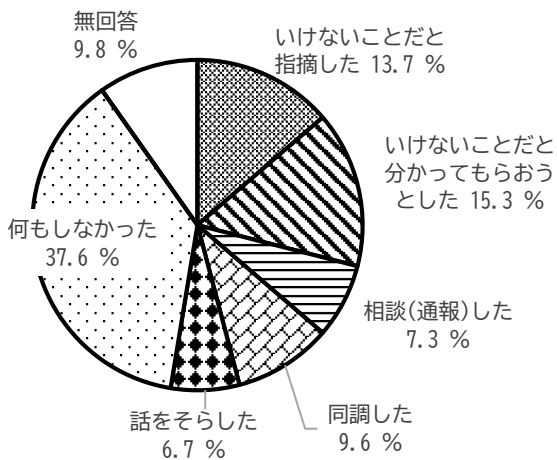
【問 14-3 それはあなた自身に対するものでしたか。】

(いずれか1つに○)



【問 14-4a どう対応しましたか。】

(いずれか1つに○)



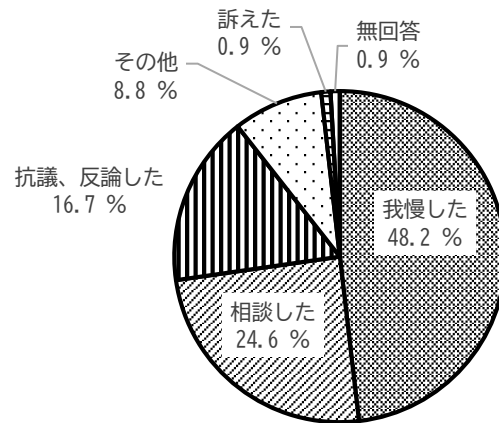
「何もしなかった」と回答した人の割合が 37.6%と、「いけないうことだと指摘した」、「いけないうことだと分かってもらおうとした」、「相談した」の合計 36.3%と拮抗している。

一方、「同調した」と回答した人も 9.6%いる。

「相談した」の「どこに、誰に」の自由記述は、「職場の上司」、「家族、友人」、「学校、先生」、「役所」(以上各 3 件)、「児童相談所」「病院、医師」(以上各 2 件)、等となっている。

問 14-4a どう対応しましたか。

(いずれか1つに○)



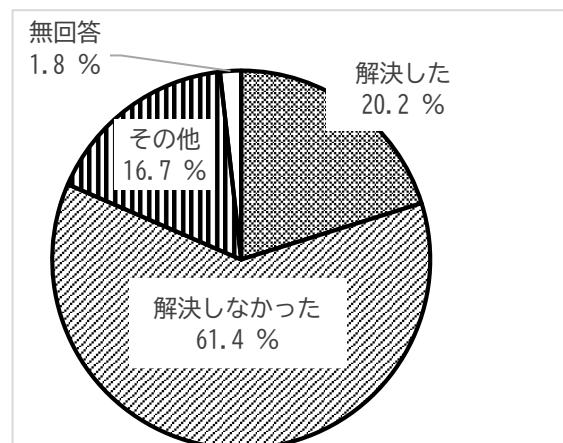
「我慢した」と回答した人の割合が 48.2%と最も高く、次の「相談した」24.6%の約 2 倍となっている。

「相談した」の「どこに、誰に」の自由記述は、「職場の上司・同僚」(10 件)が最も多く、「家族」(5 件)、「会社・雇用主」(4 件)、「警察」(2 件)、「組合」(2 件)、等となっている。

「訴えた」の「どこに」の自由記述は、「組合」(1 件)、「その他」の自由記述は、「退職した」(2 件)、等となっている。

問 14-5a 最終的に解決しましたか。

(いずれか1つに○)

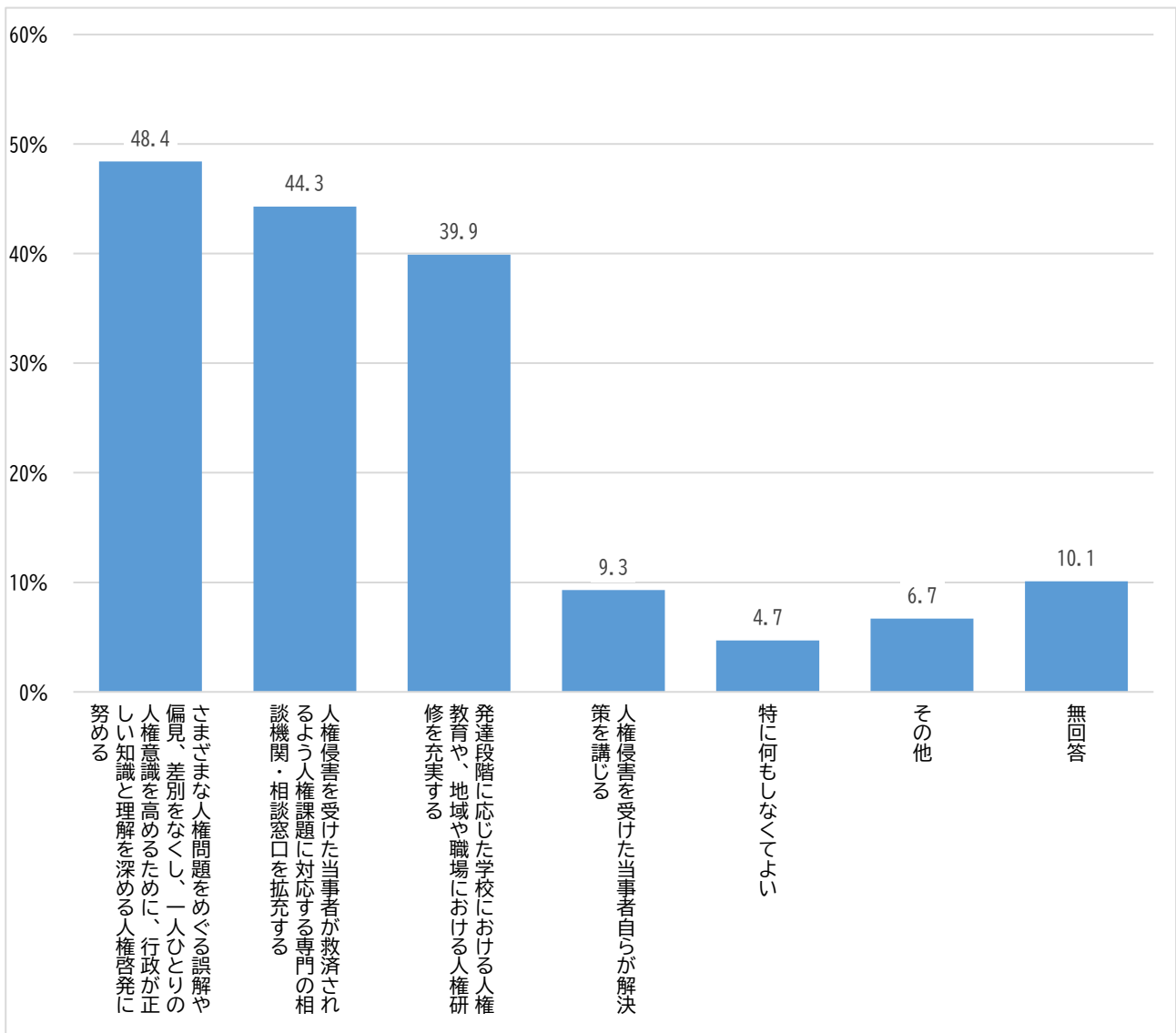


「解決しなかった」と回答した人の割合が 61.4%と最も高く、次の「解決した」20.2%の約 3 倍となっている。

「その他」の自由記述は、「退職した」(4 件)、「協議中」(2 件)、等となっている。

【問 14-5b そのような問題(事案)は、どのように対応したらよいと考えますか。】

(〇はいくつでも)

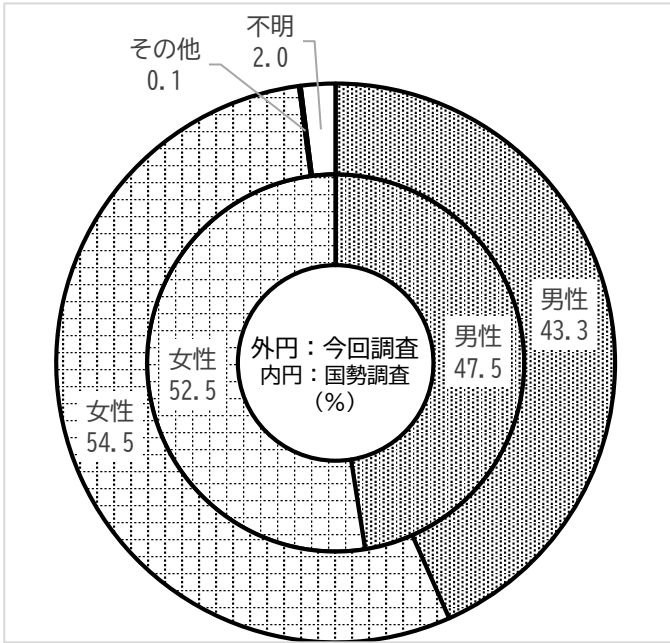


「さまざまな人権問題をめぐる誤解や偏見、差別をなくし、一人ひとりの人権意識を高めるために、行政が正しい知識と理解を深める人権啓発に努める」と回答した人の割合が48.4%で最も高く、次いで「人権侵害を受けた当事者が救済されるよう人権課題に対応する専門の相談機関・相談窓口を拡充する」44.3%、「発達段階に応じた学校における人権教育や、地域や職場における人権研修を充実する」39.9%となっている。

「特に何もしなくてよい」と回答した人の割合は4.7%に留まる。

「その他」の自由記述は、「学校での教育」、「罰則を設ける」、「差別問題はどうしてもなくなるしない」(以上各2件)、等となっている。

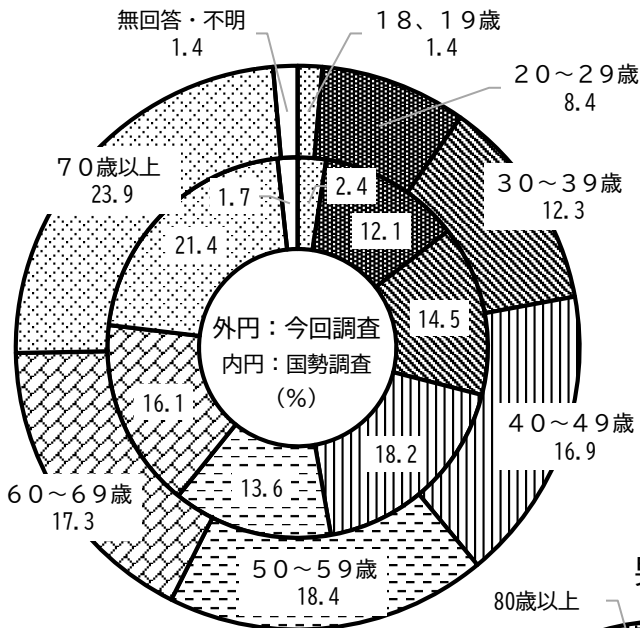
【問 15 あなたの性別は】（いずれか1つに○）



男性が 43.3%、女性が 54.5%とほぼ平成 27 年国勢調査での割合になっている。

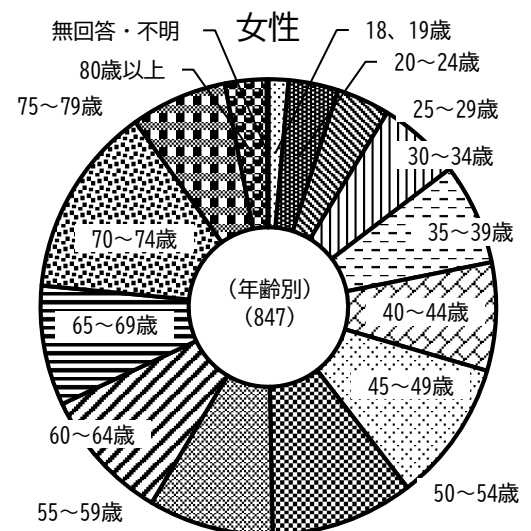
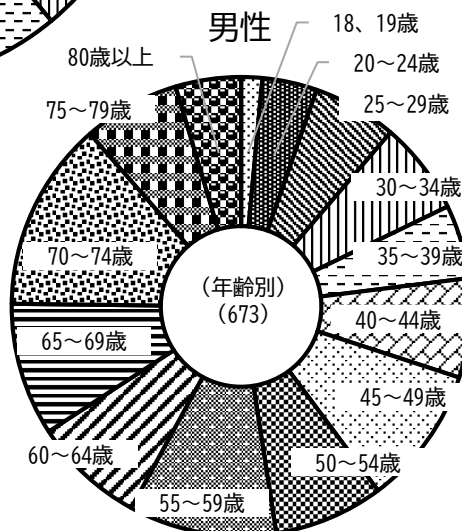
【問 16 あなたの年齢は。11 月 1 日現在の満年齢でお答えください。】

（いずれか1つに○）



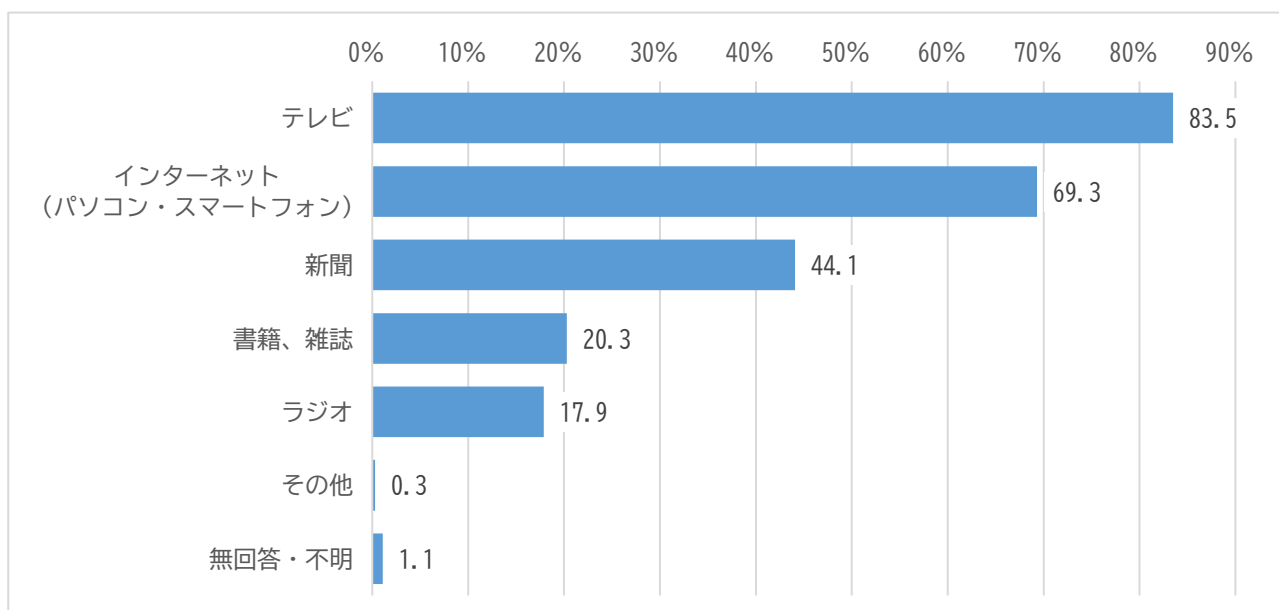
「70 歳以上」が 23.9%で最も高く、次いで「50 歳代」が 18.4%である。一方、「20 歳代」は 8.4%で低くなっている。

29 歳以下と 50 歳代で、国勢調査での割合との乖離が大きい。



【問 17 あなたが日常的に利用する主なメディアは】

(〇はいくつでも)

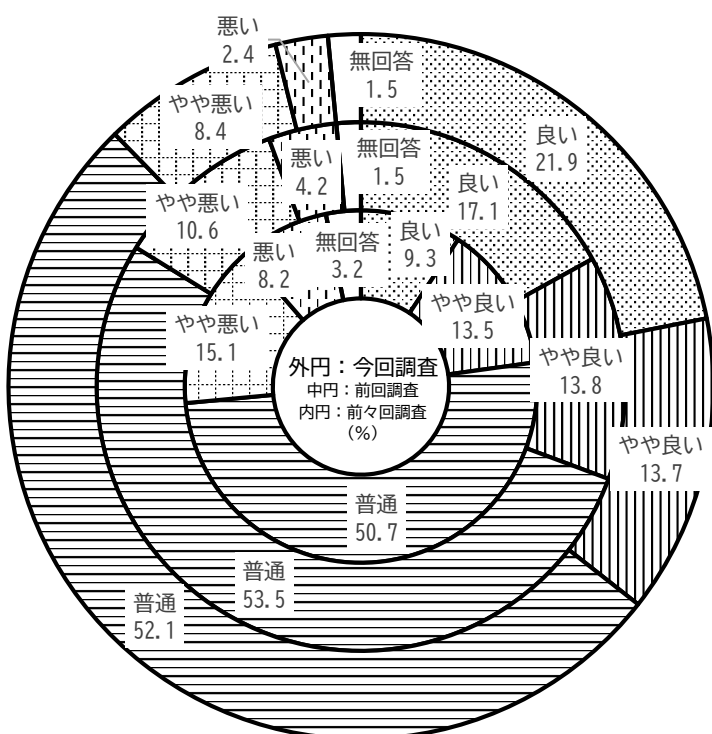


日常的に利用する主なメディア(いくつでも)を尋ねたところ、「テレビ」と回答した人の割合が 83.5%と突出して高く、次いで「インターネット」69.3%、「新聞」44.1%となっている。

一方、「書籍、雑誌」、「ラジオ」と回答した人の割合はともに約 20%と、上位 3 つのメディアに係る数値とは相当乖離している。

【問 18 あなたの現在の暮らし向きは】

(いずれか1つに〇)



「普通」と回答した人の割合が 52.1%と過半を占め、「良い」又は「やや良い」と回答した人の割合は 35.6%、「やや悪い」又は「悪い」と回答した人の割合は 10.8%となっている。

平成 27 年調査と比較すると、「良い」が 4.8 ポイント高くなっており、「やや悪い」が 2.2 ポイント、「悪い」が 1.8 ポイントそれぞれ低くなっている。

【問 19 人権問題や今後の人権教育・啓発についてご意見・ご要望があれば、自由にお書きください】

回答者総数 1,553 人中 335 人(21.6%)が記入している、内容は、おおむね以下のように分類できる。

- 正しい知識の普及・啓発が必要。子どもや企業、職員への人権教育に力を入れるべき。..... 89 件
 - 人権問題に関する体験談..... 36 件
 - 教育・啓発以外の行政による支援が必要。..... 29 件
 - 差別がなくなり平等になってほしい。..... 29 件
 - その他アンケート内容に関する意見 21 件
 - アンケートが人権問題を考える機会になった。..... 18 件
 - 相談窓口を充実させる。..... 13 件
 - 優遇や行き過ぎた支援のような逆差別も問題である。..... 12 件
 - 差別はなくなる。差別をなくすのは難しい。..... 6 件
 - 大きく取り上げるから逆に意識してしまう。何でも「人権」「差別」と騒がない。..... 4 件
 - 人権問題についての知識がない、分からない。..... 4 件
 - その他 80 件
- 府政、行政全般に関する意見..... 27 件